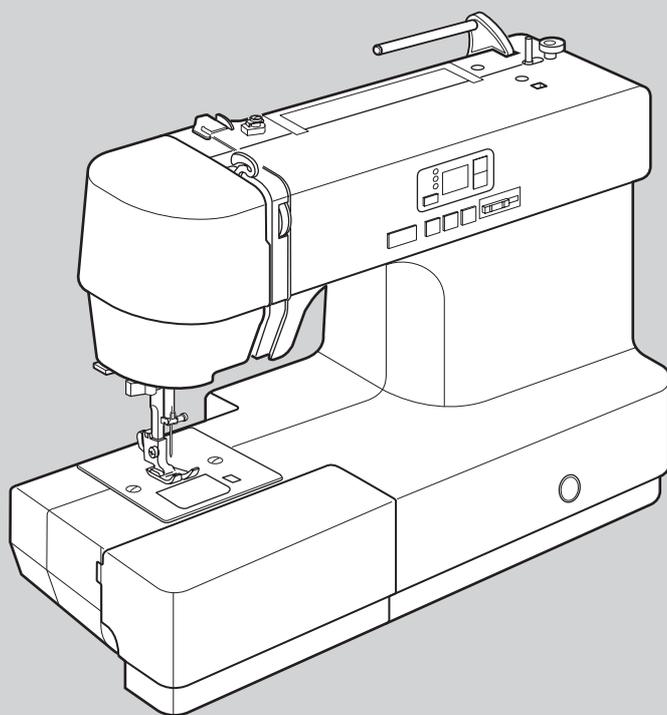


取扱説明書



JANOME

安全上のご注意

- ◆ ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆ お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆ このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示	 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
----------------	---	-------------------------------------	---	---

本文中の図記号の意味		△ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
		⊘ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
		● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 警告	感電・火災の原因となります。
 禁止	ストーブ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～35℃です。
 禁止	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
 禁止	電源コードやフットコントローラーのコードについて、以下の行為は行わないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 傷つける ・ 加工する ・ はさみ込む ・ たばねる ・ 引っ張る ・ 無理に曲げたり、ねじったりする ・ 重い物をのせる ・ 高温部に近づける 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
 必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。
 必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
 必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ミシンのそばを離れるとき ・ ミシンを使用したあと ・ ミシン使用中に停電したとき

 注意	感電・火災・けがの原因となります。
 分解禁止	分解はしないでください。
 接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
 禁止	このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。 付属の専用電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。

 注意	感電・火災・けがの原因となります。
 禁止	曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。
 禁止	ぬい途中に布を無理に引っ張ったり、押しついたりしないでください。
 禁止	ミシンの通風口はふさがないようにしてください。
 禁止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。 また、ご使用の際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
 注意	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
 必ず実行	ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。
 必ず実行	プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
 必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
 必ず実行	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
 必ず実行	以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 押さえ、アタッチメントを交換するとき ・ 上糸、下糸をセットするとき
 必ず電源プラグを抜く	以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ミシンのお手入れを行うとき ・ 針、針板を交換するとき
 必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正常に作動しないとき ・ 水にぬれたとき ・ 落下などにより破損したとき ・ 異常な臭い・音がするとき ・ 電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

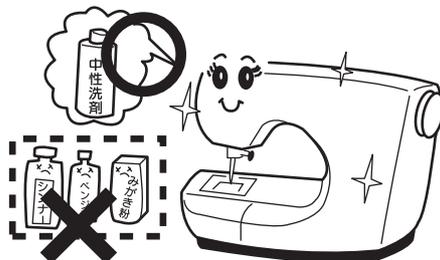
目次

◎お取り扱いについてのお願い.....	3	●ジグザグぬい.....	24 ~ 25
◎各部のなまえと標準付属品.....	4 ~ 5	★ぬい目の幅をかえるとき.....	24 ~ 25
●各部のなまえ.....	4	★ぬい目のあらさをかえるとき.....	25
●標準付属品.....	5	●たち目かがり.....	26
●糸立て棒の取り付け方.....	5	●トリコットぬい（三点ジグザグ）.....	26
●補助テーブル（付属品収納場所）.....	5	●ニットかがり.....	26
●フリーアームの使い方.....	5	●かがりぬい.....	27
◎基本操作.....	6 ~ 19	●ゴムひも付け.....	27
●電源のつなぎ方.....	6	●ボタンホール.....	28 ~ 30
★スタート/ストップボタン使用时.....	6	★ボタンホールのぬい.....	28 ~ 29
★フットコントローラー（オプション）使用时.....	6	★ぬい目の幅（ボタンホールの幅）をかえる.....	30
●スタート/ストップボタン.....	7	★ぬい目のあらさをかえる.....	30
●速さの調節.....	7	●芯入りボタンホール.....	31
★スピードコントロールつまみ.....	7	●ボタン付け.....	32
★フットコントローラー（オプション）.....	7	●ファスナー付け.....	33 ~ 35
●操作ボタンの主なはたらき.....	8	●まつりぬい.....	36
●送り歯のさげ方.....	9	●ギャザー.....	37
●押さえの取りかえ方.....	9	◎応用ぬい.....	38 ~ 43
●押さえホルダーの外し方・付け方.....	10	●ファゴティング.....	38
●押さえ上げ.....	10	●シェルタック.....	38
●糸調子の合わせ方.....	11	●アップリケ.....	39
●針の取りかえ方.....	12	●フリンジ.....	40
●布に適した糸や針を選ぶ目安.....	12	●ドロンワーク.....	40
●下糸の準備.....	13 ~ 15	●スモッキング.....	41
★ボビンの取り出し.....	13	●密着模様ぬい（サテン）.....	41
★糸こまのセット.....	13	●パッチワーク.....	42
★補助糸立て棒の利用.....	13	●スカラップ.....	42
★ボビンに下糸を巻く.....	14	●飾り模様.....	43
★ボビンのセット.....	15	◎ミシンのお手入れ.....	44
●上糸の準備.....	16 ~ 17	●かまと送り歯の掃除.....	44
★上糸のかけ方.....	16	●内がまと針板の組み付け.....	44
★糸通しの使い方.....	17	◎こんなときには.....	45 ~ 49
●下糸を引きあげる.....	18	●エラー画面が表示された場合.....	45
●表示画面の説明.....	19	●ブザー音の種類.....	45
●模様の選び方.....	19	●ミシンの調子が悪いときの直し方.....	46 ~ 48
◎実用ぬい.....	20 ~ 37	●面板の取り外し、取り付け方.....	48
●直線ぬい.....	20 ~ 21	●模様の形の調整（送り調整ねじ）.....	49
★ぬい始め.....	20	●模様一覧.....	50
★ぬい方向の変更.....	20		
★ぬい終わり.....	21		
●針板ガイドラインの利用.....	21		
★コーナーリングガイド.....	21		
●針位置をかえるとき（直線状模様）.....	22		
●ぬい目のあらさをかえるとき（直線状模様）.....	22		
●その他の直線状模様.....	23 ~ 24		
★自動返しぬい.....	23		
★自動止めぬい.....	23		
★三重ぬい.....	23		
★伸縮ぬい.....	24		

◎お取り扱いについてのお願い

◇ご使用前に

- ① ほこりや油などでぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

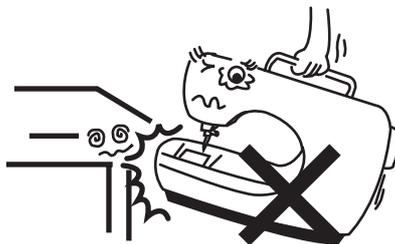


◇いつまでもご愛用いただくために

- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。



- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

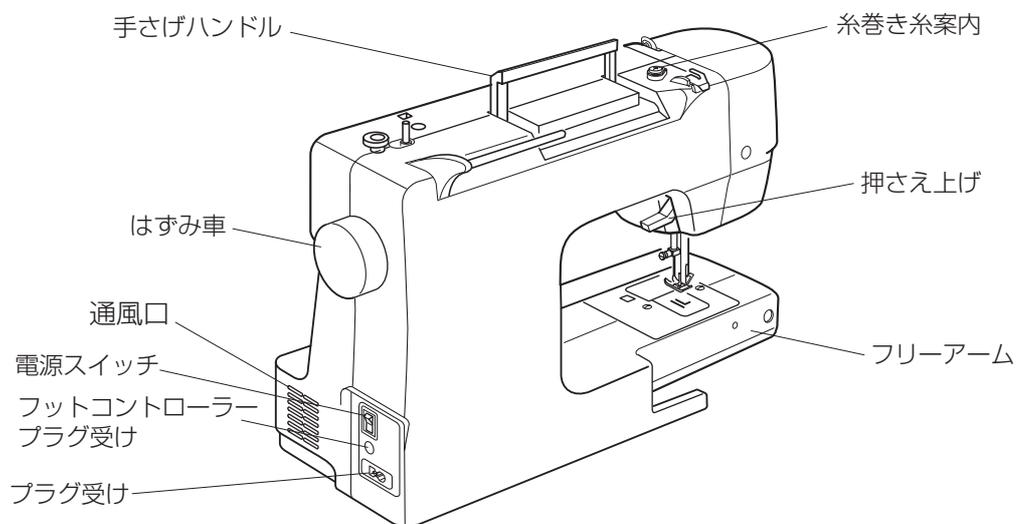
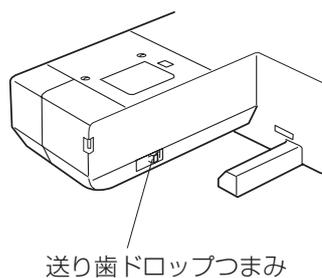
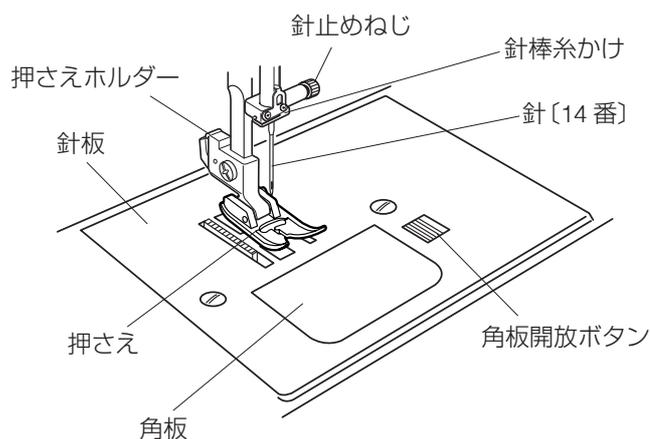
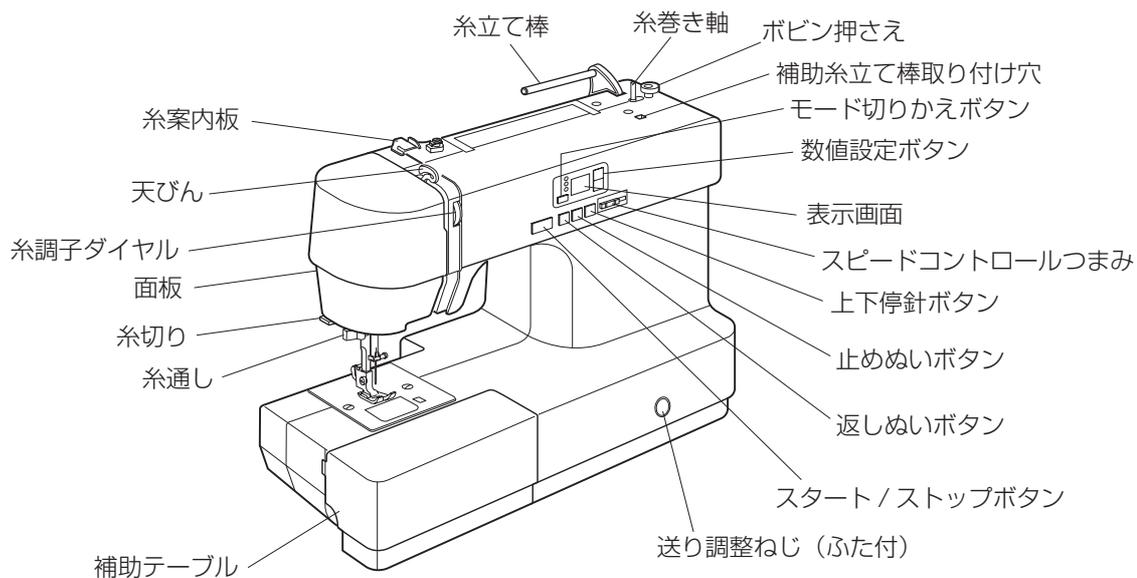


◇修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障が生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(46～48ページ)にしたがって点検・調整を行ってください。

◎各部のなまえと標準付属品

●各部のなまえ

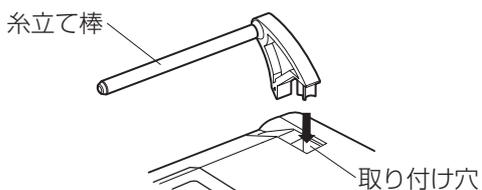
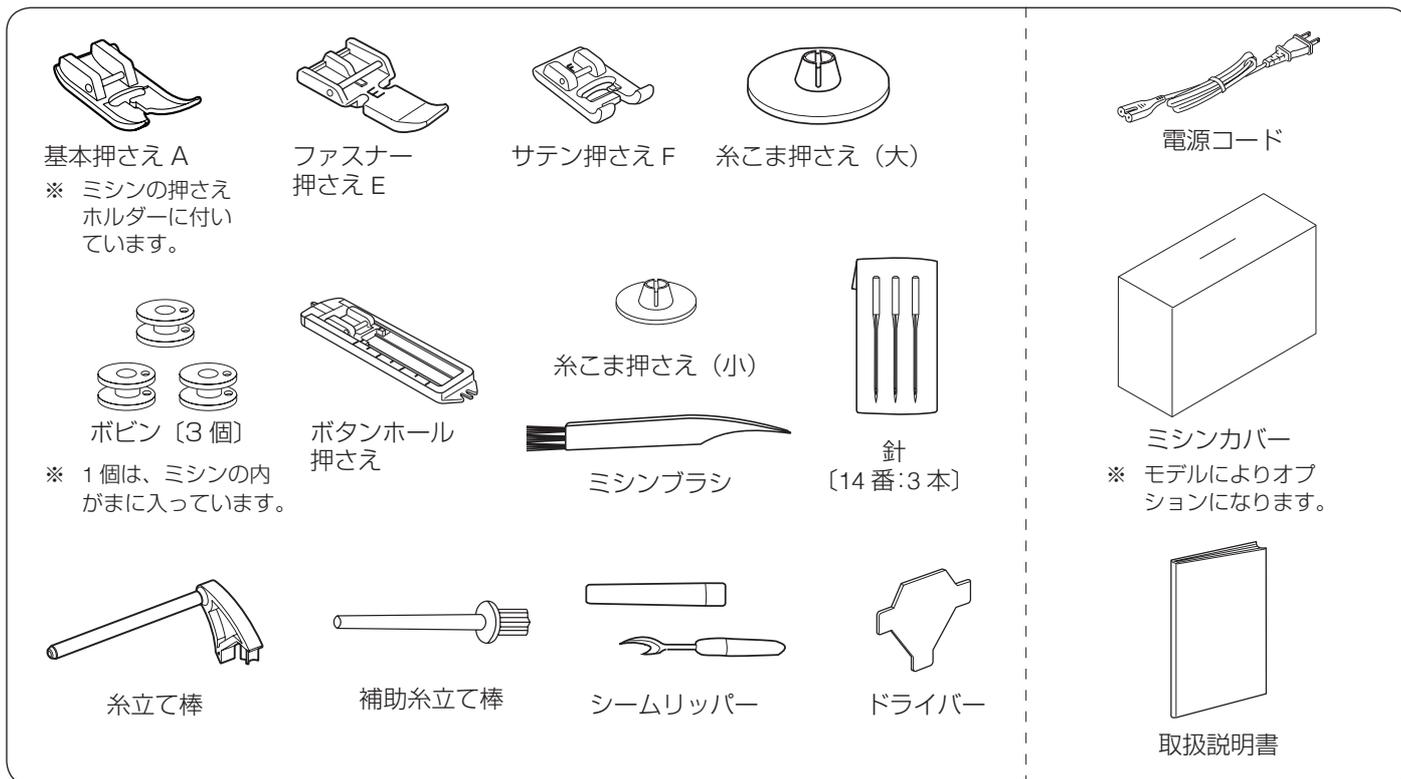


※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

※ ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

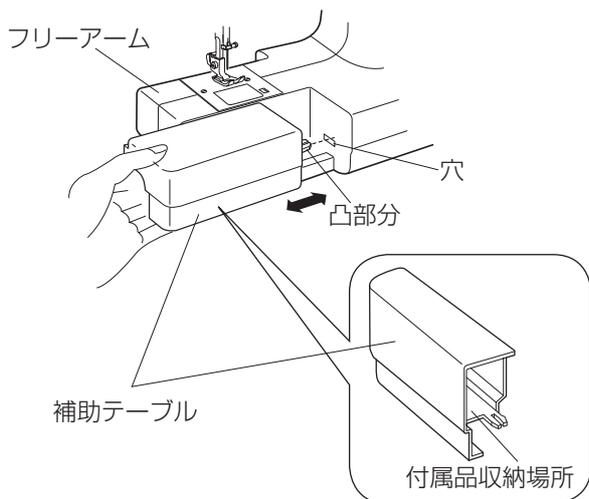
● 標準付属品

※ 補助テーブルの付属品収納場所に入っています。



● 糸立て棒の取り付け方

糸立て棒を取り付け穴に差し込んで取り付けます。



● 補助テーブル (付属品収納場所)

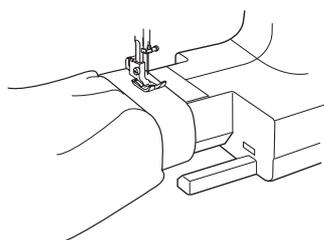
補助テーブルを外すと、押さえなどの小物が収納できます。

【補助テーブルの外し方・付け方】

補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそれぞれ、補助テーブル凸部分を穴に入れて取り付けます。

【付属品収納場所】

押さえなどの小物が収納できます。

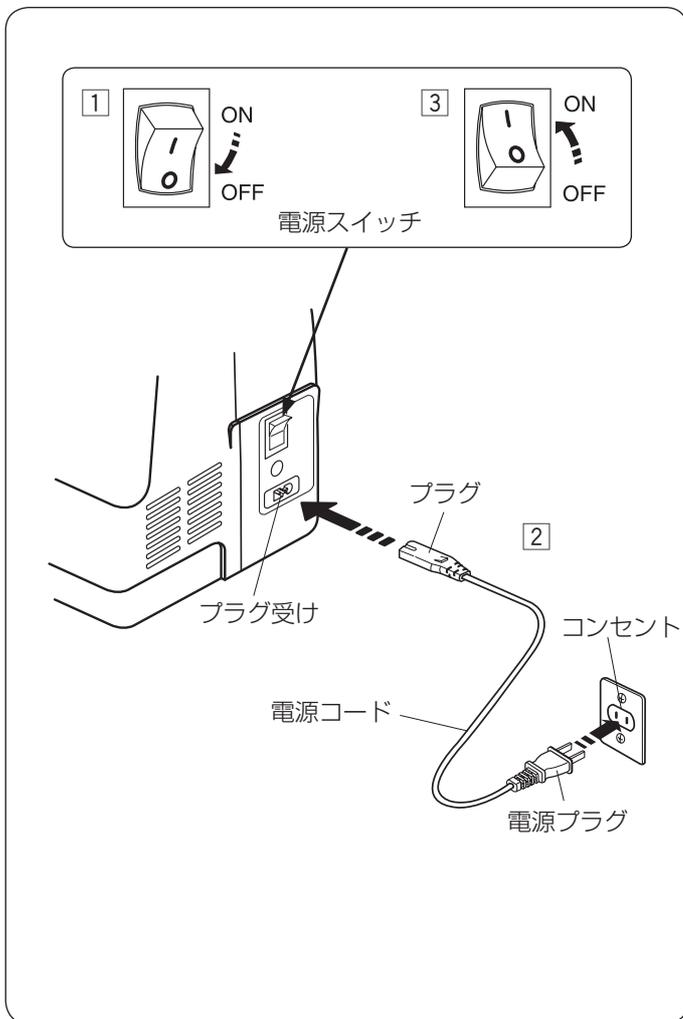


● フリーアームの使い方

補助テーブルを外すと、フリーアームになります。そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

◎基本操作

●電源のつなぎ方



⚠警告

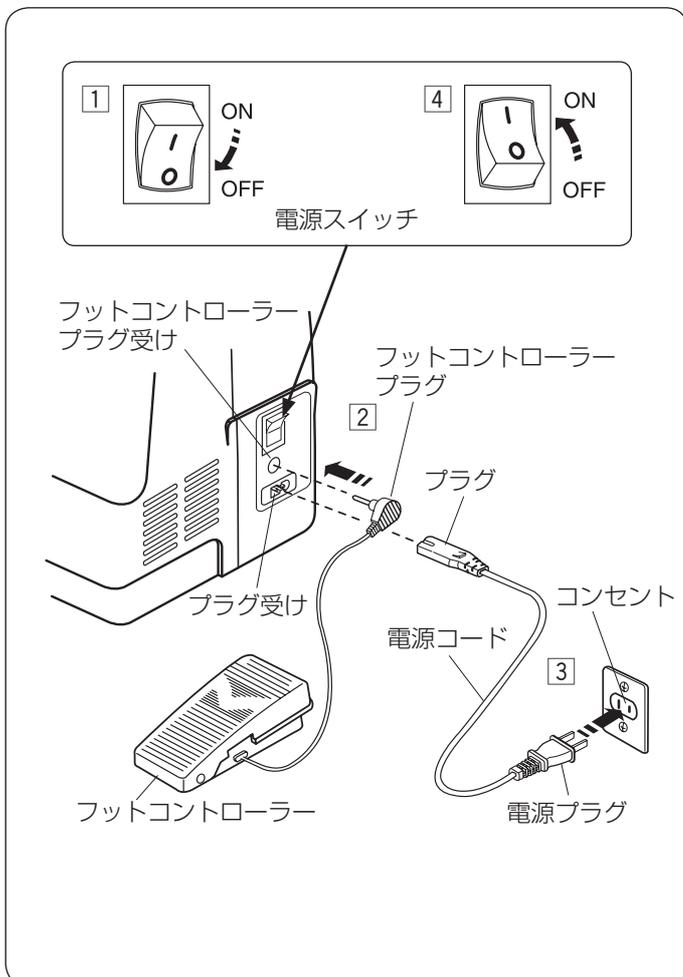
- 電源は、一般家庭用交流電源 100 V で使用してください。ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電・火災の原因となります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。ほこりなどが付着していると、湿気などによって絶縁不良となり火災の原因となります。

★スタート/ストップボタン使用時

- 1 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- 2 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 3 電源スイッチを「ON」(入) にします。

※ 電源スイッチを入れると、ミシンの準備のための初期設定が数秒間行われます。初期設定中は針などが動きますので、ミシンに触れないでください。

※ フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップボタンは使用できません。

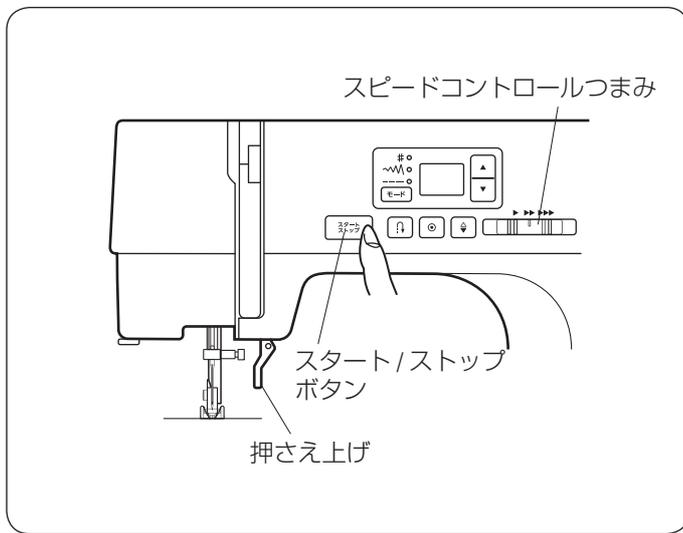


★フットコントローラー (オプション) 使用時

※ フットコントローラーはオプションです。

※ フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップボタンは使用できません。

- 1 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- 2 フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。
- 3 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 4 電源スイッチを「ON」(入) にします。



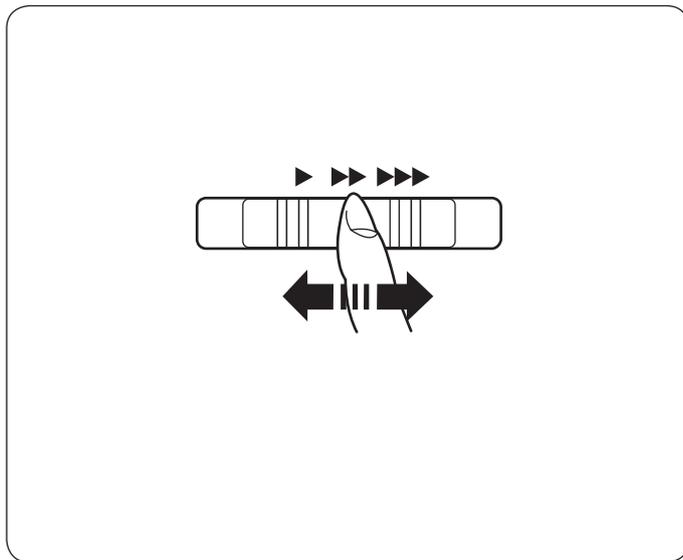
● スタート/ストップボタン

押さえ上げをさげてスタート/ストップボタンを押すと、ミシンはゆっくり動きはじめてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。

もう一度押すとミシンは止まります。通常は、針が上の位置で止まります。

※ スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けているあいだ（手をはなすまで）は、ミシンは低速で動きます。

※ フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップボタンは使用できません。



● 速さの調節

ぬう速さは、スピードコントロールつまみやフットコントローラーで調節します。

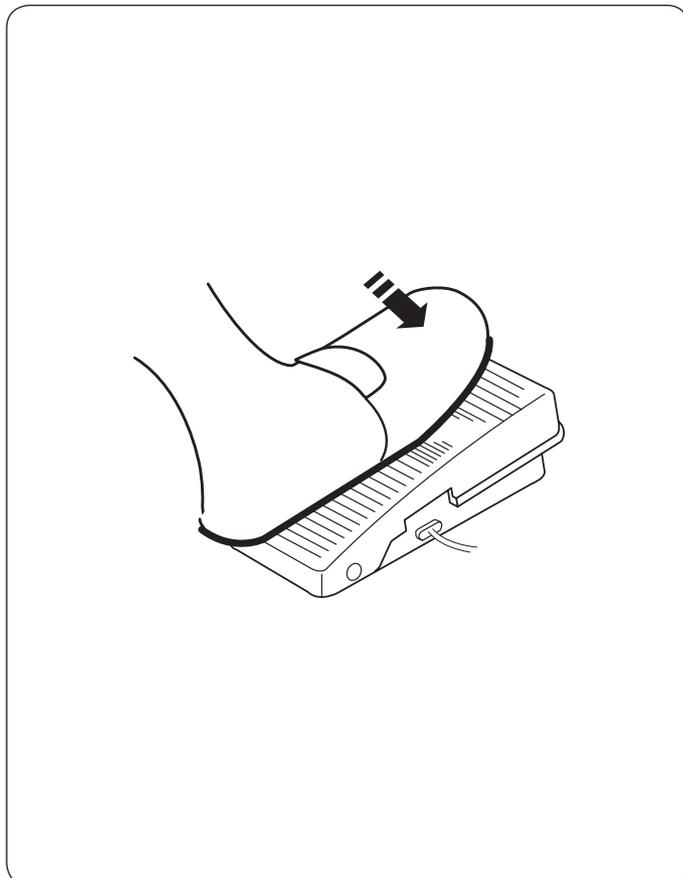
★ スピードコントロールつまみ

スピードコントロールつまみは、スタート/ストップボタン使用時のぬう速さを調節できます。

スピードコントロールつまみの位置が右側になるほど速くなります。

※ フットコントローラー使用時は、フットコントローラーをいっぱいにふみ込んだときの最高速度を調節できます。

※ 最高速度は、模様のぬい目のあらかさ、および模様の種類によって変化します。



★ フットコントローラー（オプション）

フットコントローラーのふみかげんで、ぬう速さが調節できます。

- 深くふむ→速くなる。
- 浅くふむ→遅くなる。

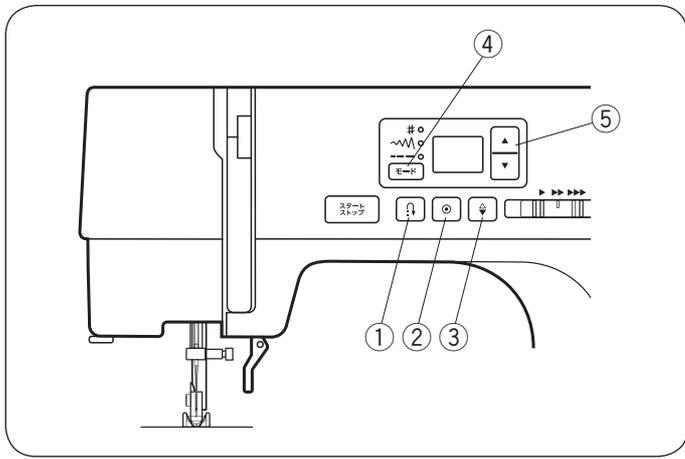
※ スピードコントロールつまみは、通常、いちばん右側の位置（最高速）にして、ふみかげんで調節してください。

初心者の方が細かいものをぬうときなどは、低速側にしておくと、フットコントローラーをいっぱいにふみ込んでもスピードが出ないので使いやすくなります。

※ フットコントローラーをふみ込んでもミシンが動かない場合、もう一度電源を入れなおし、フットコントローラーをゆっくりふみ込んでください。

⚠ 注意

- フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因になります。
- フットコントローラーを使用するときは、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。動作不良を起こし、けがや故障の原因になります。



● 操作ボタンの主なはたらき

① 返しぬいボタン

【運転中の返しぬい】

模様 $\begin{matrix} 01 & 04 & 07 & 08 \\ | & | & | & | \\ \text{c} \text{p} & \text{c} \text{p} & \text{M} & \text{M} \end{matrix}$ は、ぬっている途中で返しぬいボタン

を押すと、押しているあいだは返しぬいをします。その他の模様の場合、ボタンを押すとその位置で止めぬいをして自動的に止まります。ミシンを停止してから返しぬいボタン押した場合、運転再開後、その位置でほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

【停止中の返しぬい】

(フットコントローラーを接続していないときのみ)

模様 $\begin{matrix} 01 & 04 & 07 & 08 \\ | & | & | & | \\ \text{c} \text{p} & \text{c} \text{p} & \text{M} & \text{M} \end{matrix}$ は、ミシンが動いていない状態で返し

ぬいボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをし、指をはなすと止まります。

※ 模様 $\begin{matrix} 02 & 03 & 17 \\ | & | & | \\ \text{c} \text{p} & \text{c} \text{p} & \text{MEM} \end{matrix}$ は、特殊な使い方になります。

(23、28～29 ページ参照)

② 止めぬいボタン

模様 $\begin{matrix} 01 & 02 & 04 & 07 & 08 \\ | & | & | & | & | \\ \text{c} \text{p} & \text{c} \text{p} & \text{c} \text{p} & \text{M} & \text{M} \end{matrix}$ は、止めぬいボタンを押すとその位置で止めぬいをして自動的に止まります。ミシンの停止中に押した場合、運転再開後、その位置でほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

その他の模様の場合、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。ミシンが停止中に押した場合、運転再開後、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

※ ぬう前にボタンを押しておく、模様を1つだけぬって止めぬいをし、自動的に止まります。

③ 上下停針ボタン

ミシンが止まっているときに上下停針ボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえることができます。

※ 上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。

電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。

④ モード切りかえボタン

モードを切りかえるときに押します。

モード切りかえボタンでは、「模様番号選択」、「ぬい目の幅設定」、「ぬい目のあかさ設定」を切りかえることができます。

⑤ 数値設定ボタン

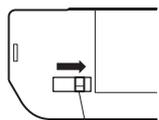
数値を変更するときに押します。

※  ボタンを押すと、数値が大きくなります。

※  ボタンを押すと、数値が小さくなります。

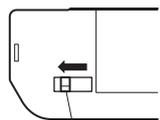
〔前側から見た図〕

送り歯をあげる位置

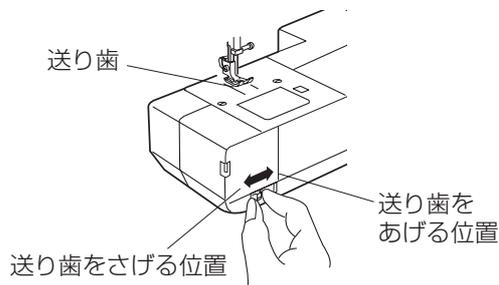


送り歯ドロップつまみ

送り歯をさげる位置



送り歯ドロップつまみ



● 送り歯のさげ方

ボタン付けなどのときは、送り歯ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットして、送り歯をさげます。

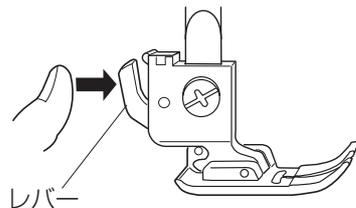
※ 終わったら、「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認します。

● 押さえの取りかえ方

⚠ 注意

- 押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。
- 押さえは模様にあったものを使用してください。押さえが合っていないと針が押さえにあたり、けがの原因となります。

押さえの記号



レバー

【押さえの外し方】

押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押し、押さえを外します。

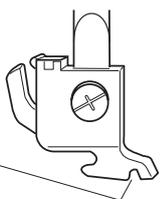
※ レバーを上から押さないでください。故障の原因となります。

※ 押さえ上げのあげ方は、10 ページの「押さえ上げ」をごらんください。

【押さえの付け方】

押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

押さえホルダーのみぞ



押さえのピン



● 押さえホルダーの外し方・付け方

⚠ 注意

押さえホルダーの取り外し・取り付けを行う場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

押さえホルダーは、ミシンのお手入れのときなどに外します。

【押さえホルダーの外し方】

押さえホルダー止めねじをドライバーで左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

【押さえホルダーの付け方】

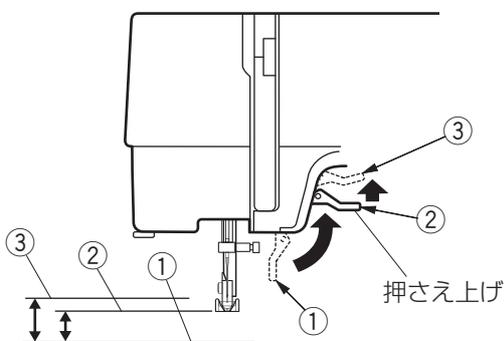
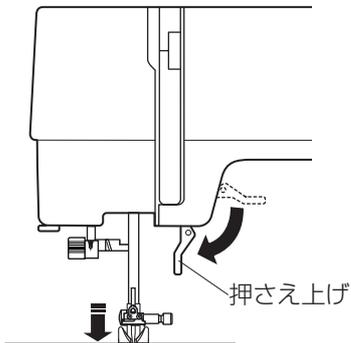
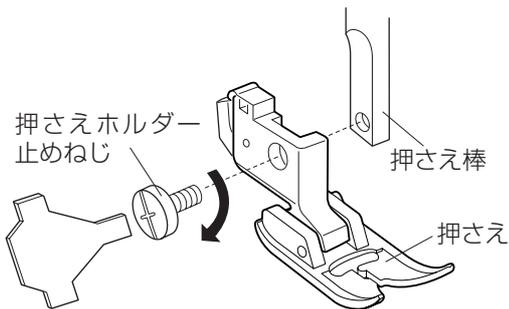
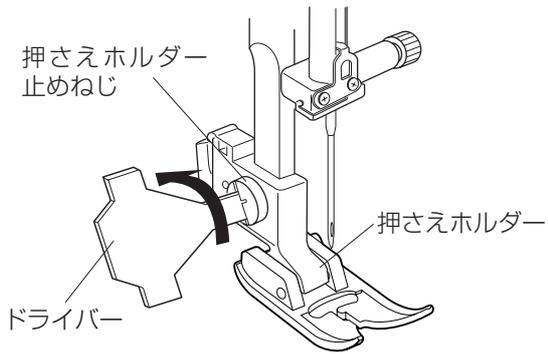
※ 押さえホルダーは、押さえが付いた状態で取り付けてください。押さえが付いていないと正常な取り付けができません。

押さえホルダー止めねじを、押さえホルダーの穴に通します。

押さえホルダー止めねじを指で回し、押さえホルダーを押さえ棒に仮止めします。

押さえ上げをゆっくりさげます。はずみ車を手前にまわし、針をいちばん下までさげます。

押さえホルダー止めねじを一度少しゆるめてからドライバーで右にまわし、押さえホルダーを押さえ棒に取り付けます。



● 押さえ上げ

押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。

押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげることができます。

厚い布を入れるときなどに利用できます。

① さげた位置

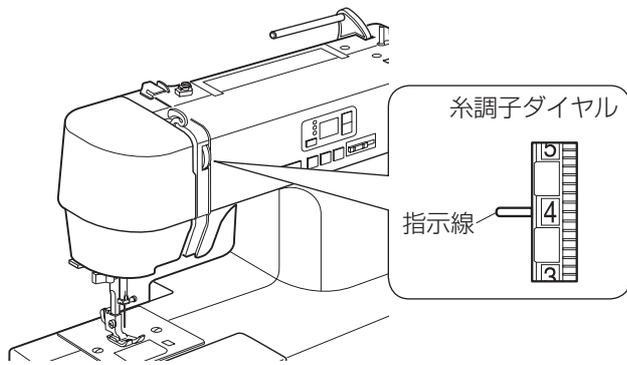
ぬうときなど

② 普通にあげた位置

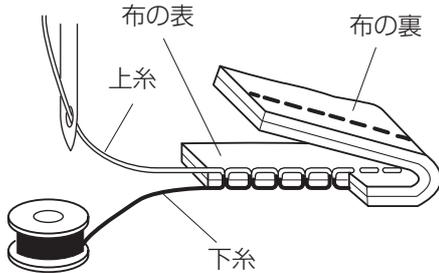
布のセットや取り出し、上糸かけ、押さえの交換のときなど

③ さらにあげた位置（固定することはできません。）

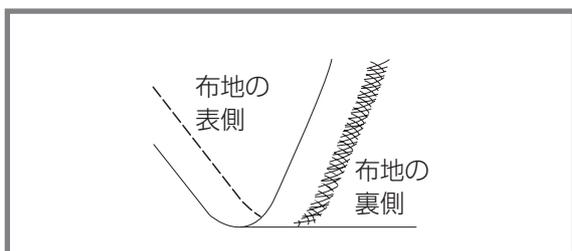
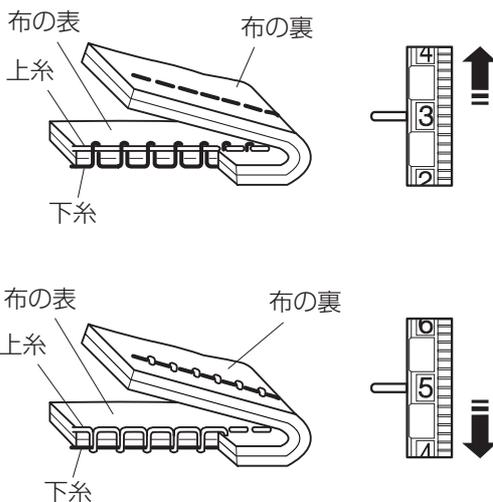
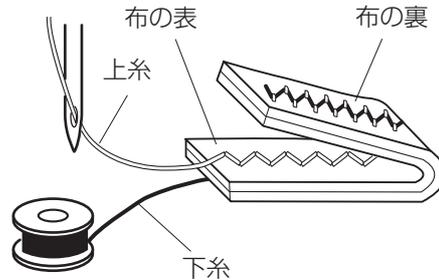
厚い布を入れるときなど



《直線ぬいの例》



《ジグザグぬいの例》



● 糸調子の合わせ方

糸調子は、特殊なぬい以外は、糸調子ダイヤルの「4」を指示線に合わせてぬいます。

糸や布の種類などによって、糸調子のバランスがとれない場合、糸調子ダイヤルを回して調節します。

【バランスのとれた糸調子】

直線ぬいの場合、糸調子のバランスがとれていると、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

ジグザグぬいのはきは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

糸調子ダイヤルをまわすと、糸調子は下記のように変化します。

- 数字を小さくすると上糸の調子が弱くなります。
- 数字を大きくすると上糸の調子が強くなります。

糸や布の種類などによって、「4」の位置で糸調子のバランスがとれない場合、下記の方法で調節します。

※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

【上糸が強すぎる時】

下糸が布の表に出ます。

糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【上糸が弱すぎる時】

上糸が布の裏に出ます。

糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

布地の裏がタオル地のような場合

左図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようなになるのは、上糸の調子が弱い、上糸のかけ方が間違っています。

上記で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してください。（「上糸のかけ方」16 ページ参照）

● 針の取りかえ方

⚠ 注意
針を交換する場合、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。けがの原因となります。

※ はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをさげます。

① 針止めねじをドライバーで手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。

② 交換する針の平らな面を向こう側に向けて差し込みます。差し込むとき、針を停止ピンにあたるまで押しあげます。

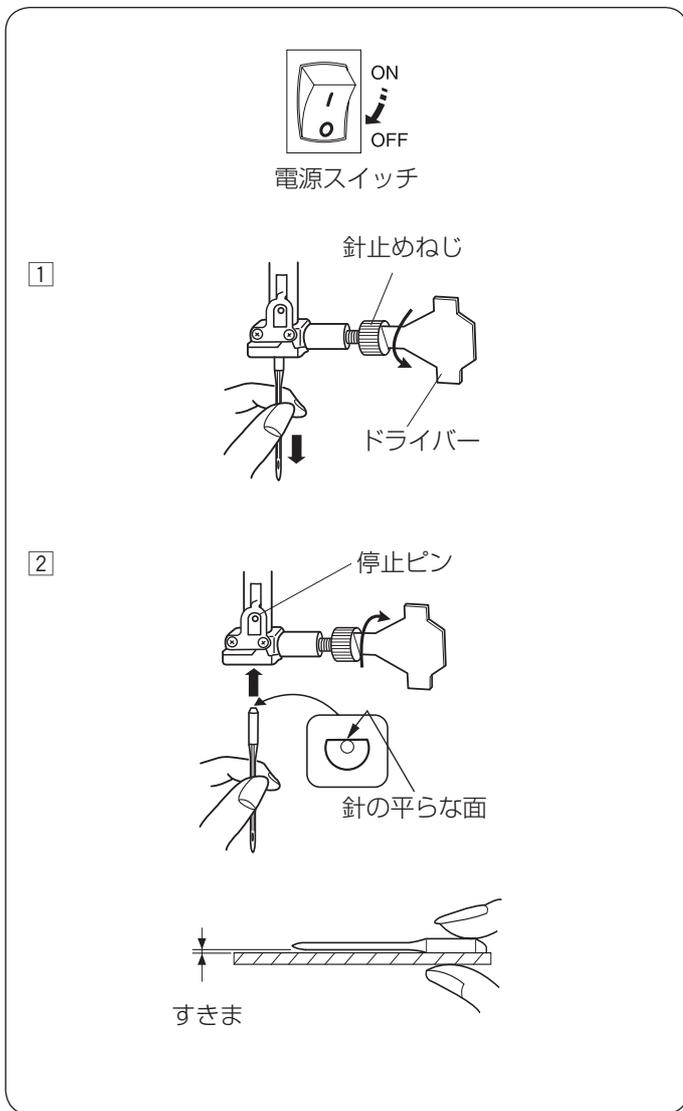
針止めねじをドライバーでまわし、針をしっかり止めます。

※ 正しく針が付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたときに、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。

針先が曲がったり、つぶれたりしているものは使わないでください。



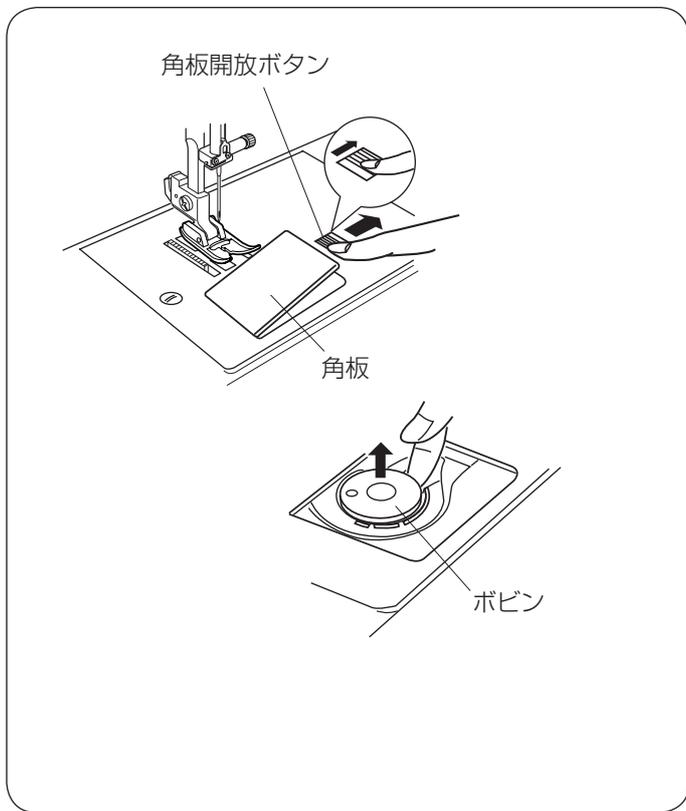
● 布に適した糸や針を選ぶ目安

布の種類		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番～ 11 番
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	絹糸 50 番 綿糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～ 90 番	11 番～ 14 番
		綿糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ツイード コート地	絹糸 50 番 綿糸 40 番～ 50 番 ポリエステル 40 番～ 50 番	14 番～ 16 番
		ポリエステル 30 番 綿糸 30 番	16 番

※ 一般的に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをしてください。

※ 通常、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布など（ジャージー、トリコットなど）目とびしやすい布地は、ジャンメブルー針（オプション）を使用すると、目とびの防止効果があります。



● 下糸の準備

※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

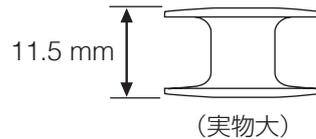
★ ボビンの取り出し

押さえ上げをあげ、角板開放ボタンを右へずらして角板を外します。

ボビンを取り出します。

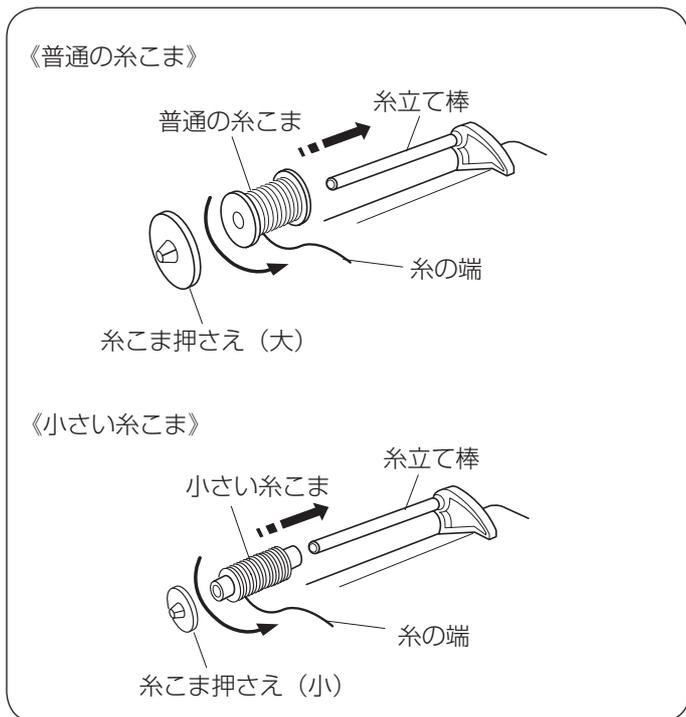
お願い

ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。(お買い上げの販売店へご相談ください。)



金属ボビンは使用しないでください。

釜にマグネットが使用されているため、糸調子の不具合や、故障の原因となります。



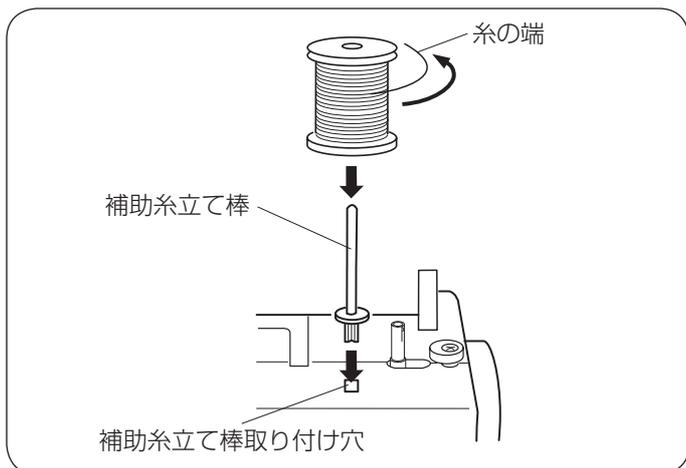
★ 糸こまのセット

【普通の糸こまのとき】

糸の端が糸こまの下から手前になるようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえ (大) で糸こまを押さえます。

【小さい糸こまのとき】

小さい糸こまのときは、糸こま押さえ (小) を使用します。



★ 補助糸立て棒の利用

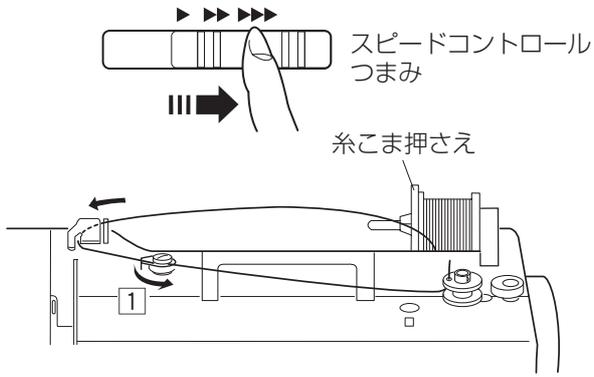
補助糸立て棒を利用すると、ぬい途中にミシンから糸を外さずに下糸を巻くことができます。

補助糸立て棒を使うときは、補助糸立て棒取り付け穴にセットします。

糸の端が糸こまの右側からうしろに出るようにします。

★ ボビンに下糸を巻く

※ 下糸を巻くときは、スピードコントロールつまみを最高速（いちばん右側の位置）にします。



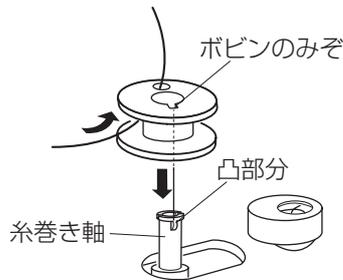
①



① 糸こまから糸を引き出し、右手で糸こま側の糸を押さえ、糸案内板の下にかけます。
矢印方向に引いて、糸巻き糸案内に糸をかけます。

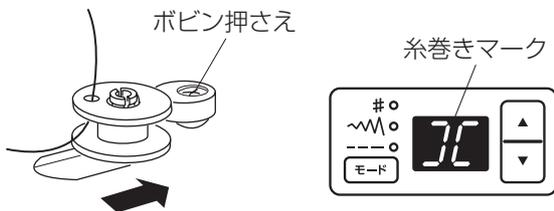
※ 糸を、糸巻き糸案内の皿の下に確実に入れてください。糸が皿の下に確実に入っていないと、均等に巻くことができません。

②



② ボビンの穴に内側から糸を通します。
糸巻き軸の凸部分とボビンのみぞが合うように、糸巻き軸にボビンを差し込みます。

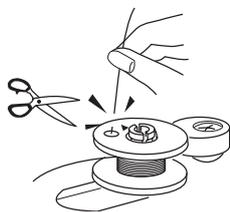
③



③ ボビンをボビン押さえの方に押しつけ、糸巻き位置にセットします。

ボビンが、糸巻き位置にセットされると、表示画面に糸巻きマークが表示されます。

④

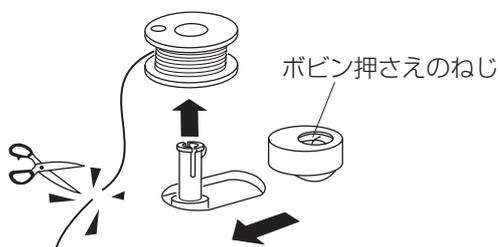


④ 糸の端をつまんだままミシンをスタートさせ、ボビンに糸を3秒間ほど巻きつけたらミシンを止めます。
穴のすぐ近くでつまんでいる糸を切ります。

再びミシンをスタートさせ、下糸を巻きます。
下糸が巻き終わると、ボビンの回転が止まります。
ボビンの回転が止まったらミシンを止めます。

※ ミシンを止めないで放置した場合、安全のためミシンがスタートしてから約90秒で自動的に止まります。

⑤



⑤ ボビンを左側にもどし、糸巻き軸からボビンを外して糸を切ります。

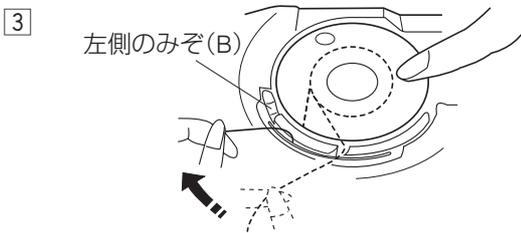
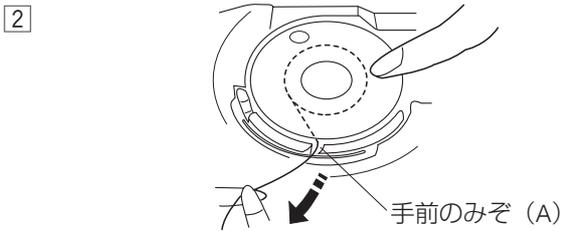
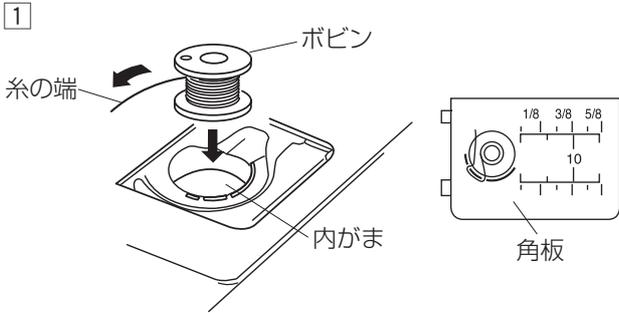
※ ボビン（糸巻き軸）は、必ずミシンを止めてからもどします。

※ ボビン押さえのねじは、ゆるめないでください。

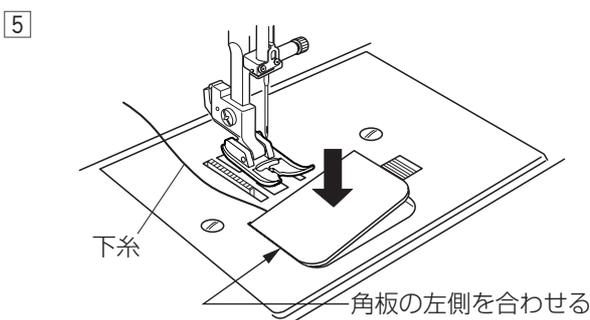
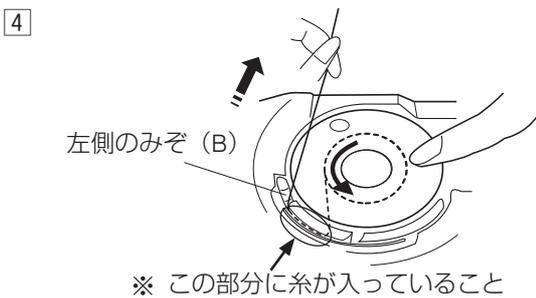
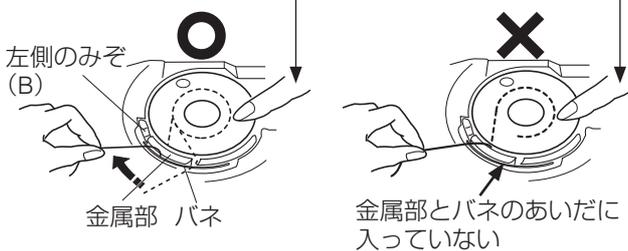
★ ボビンのセット

⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。



※ ボビンが回転しないように指で押さえる



① 糸の端がボビンのうしろ側から矢印方向に出るように向け（糸が左巻き）、ボビンを内がまに入れます。

※ ボビンから引き出される糸の図が、角板に表示されています。

② ボビンが回転しないよう、ボビンを右手で軽く押さえます。

糸の端を左手で持ち、内がまの手前のみぞ (A) にかかけます。

※ 各部に糸を確実にかけるため、下記の手順④が終了するまで、右手でボビンを押さえた状態で行ってください。

③ 糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ (B) のところに出します。

※ 手順②で、内がまの手前のみぞ (A) に糸がかかっていない場合、内がまのバネと金属のあいだに糸が入りません。その場合は手順②からかけ直します。

※ 糸が正しくかけられていないと、ぬい不良の原因となります。

④ 糸を左側のみぞ (B) にかけるように向こう側に出します。

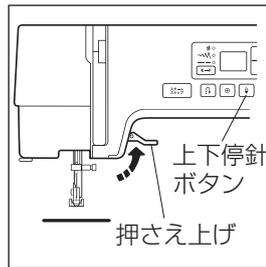
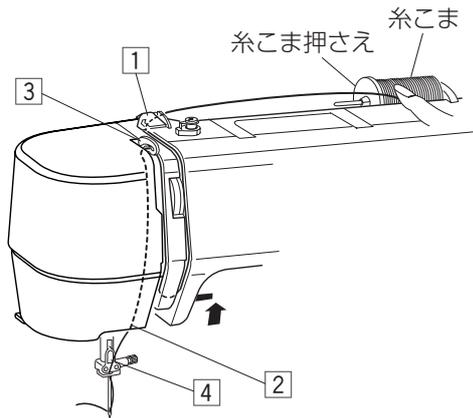
※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

⑤ 下糸を 10 cm くらい引き出し、角板を左側から合わせて付けます。

● 上糸の準備

★ 上糸のかけ方

※ はじめに、下記の準備を必ず行ってください。
ぬい不良の原因になります。

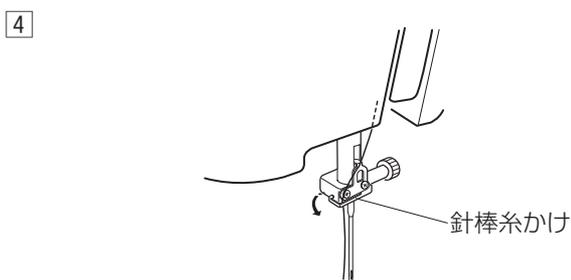
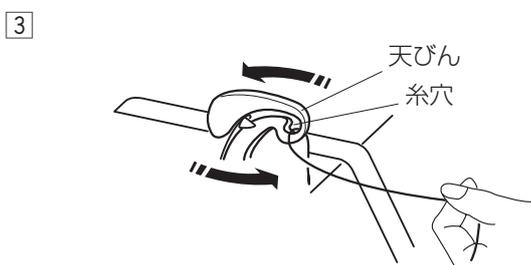
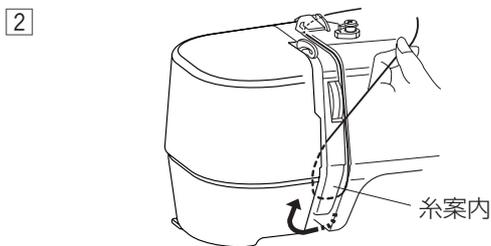
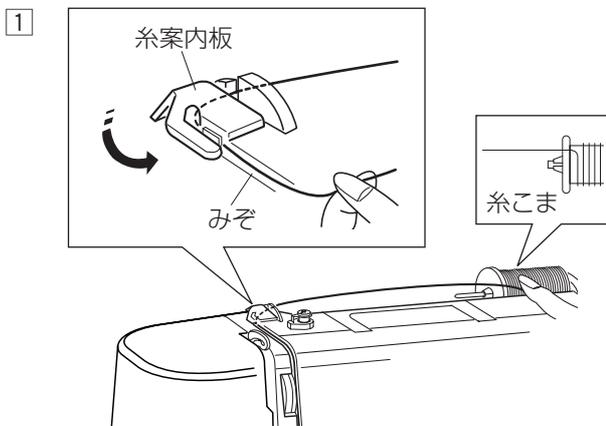


【準備】

1. 押さえ上げをあげます。
2. 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して針と天びんをあげます。
3. 電源スイッチを切ります。

⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。



※ 上糸かけは、必ず押さえ上げをあげて行ってください。押さえ上げがあがっていないと糸が正しくかけられず、ぬい不良の原因となります。

※ 各部に糸を確実にかけるため、常に右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら、左手で強めに引いて上糸かけを行ってください。

※ 糸こまのセット方法は、13ページの「糸こまのセット」をごらんください。

※ 糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。

① 糸こまから糸を引き出し、右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら糸案内板の下にかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸を糸案内の下にまわし、左上に引きあげます。

③ 糸を天びんの右からうしろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。

※ 糸が天びんの糸穴まで入っていることを確認します。

④ 針棒糸かけに左からかけます。

糸通しを使って針に糸を通します。
(「糸通しの使い方」17ページ参照)

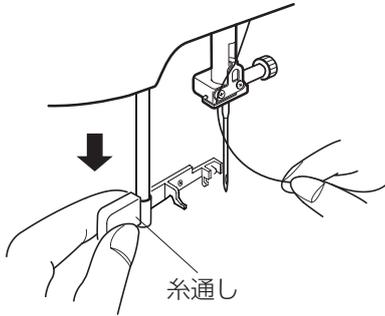
★ 糸通しの使い方

⚠ 注意

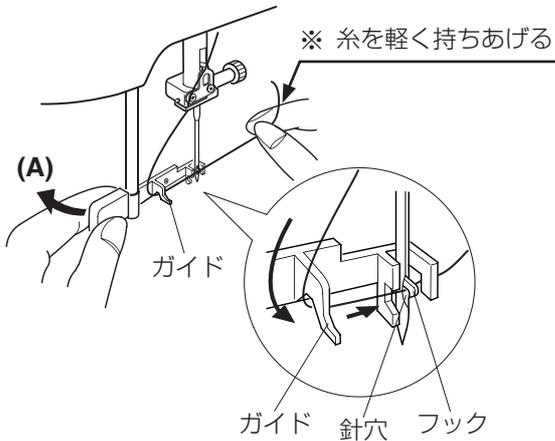
糸通しを使うときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

※ 針は 11 番～ 16 番、糸は 50 番～ 90 番が使用できます。

1



2

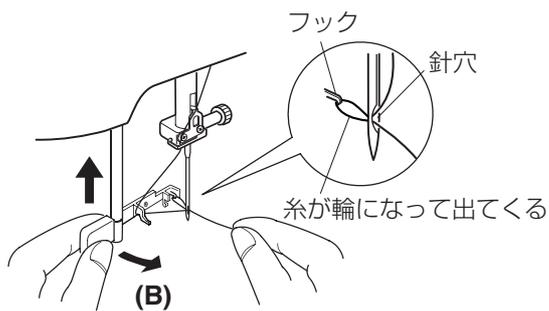


2 糸通しを矢印の方向 (A) にまわして、針穴にフックを入れます。

糸を左側からガイドとフックにかけます。

※ 右手に持っている糸は、ガイドとフックのあいだの糸がたるまない程度に軽く持ちあげてください。

3 4

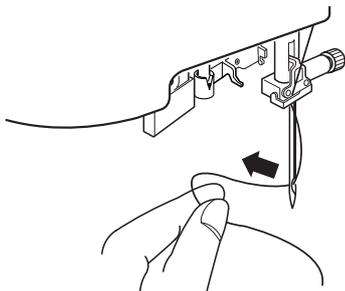


3 糸通しを矢印方向 (B) にまわすと、フックにかけた糸が、針穴の後ろから輪になって出てきます。

糸が出てきたら、右手に持っていた糸をはなしてください。

4 糸通しを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。

5

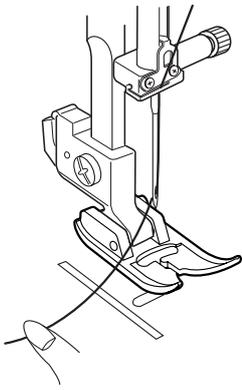


5 糸の輪を糸通しから外し、針穴から糸の端を引き出します。

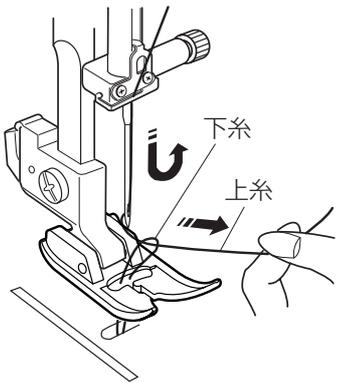
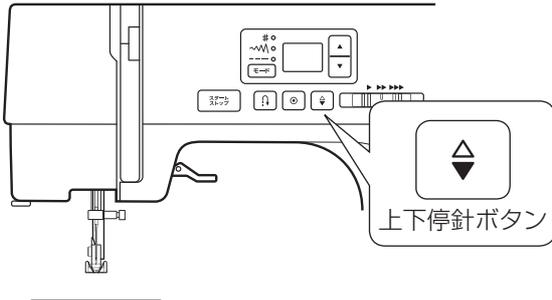
● 下糸を引きあげる

① 押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

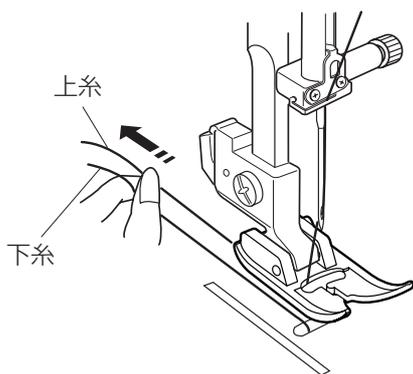
①



②

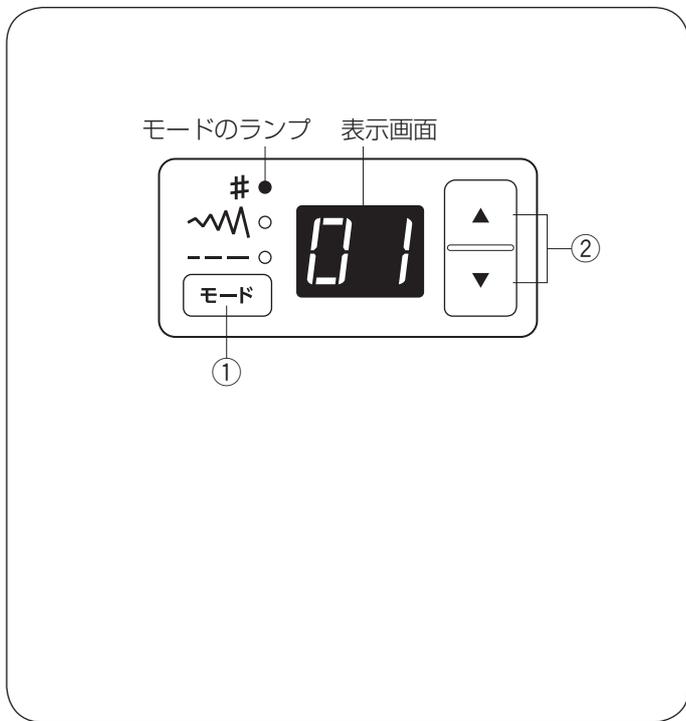


③



② 電源を入れ、上下停針ボタンを2回押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③ 上糸と下糸を押さえの下にして、約 10 cm ほど
うしろにそろえて引き出します。



● 表示画面の説明

表示画面には、選択されたモード（模様番号、ぬい目の幅、ぬい目のあかさ）の番号や数値が表示されます。

① モード切りかえボタン

操作するモードを切りかえます。選んだモードのランプが点灯します。

ボタンを押すたびに、ランプの点灯が切りかわり、下記の順番でモードが変わります。

: 模様番号

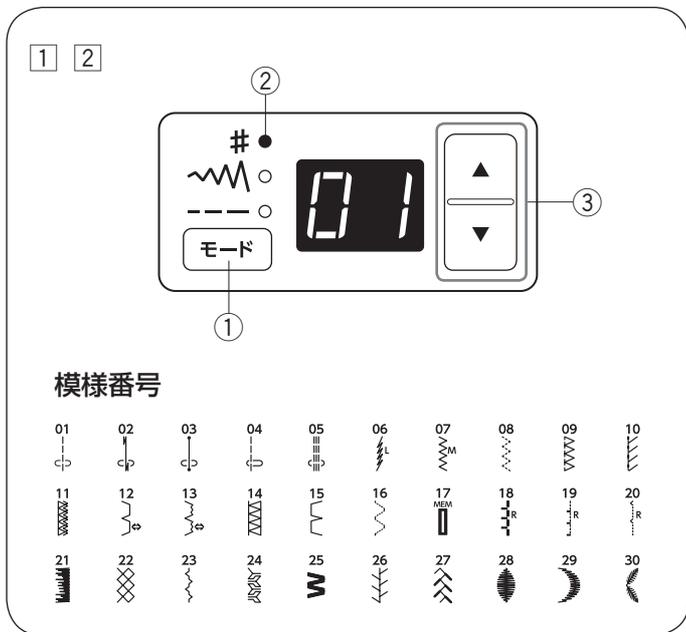
~W : ぬい目の幅

--- : ぬい目のあかさ

② 数値設定ボタン

選択されたモードの番号や数値を設定します。

- ▲ ボタンを押すと数値が大きくなります。
- ▼ ボタンを押すと数値が小さくなります。



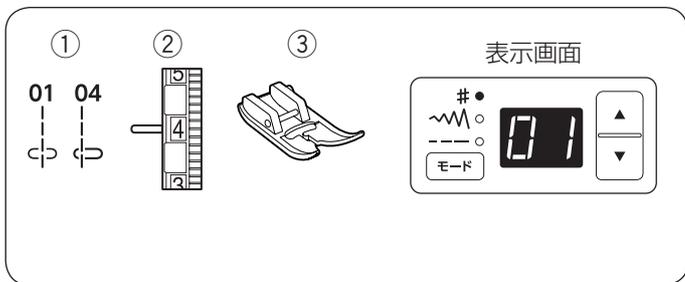
● 模様の選び方

① モード切りかえボタン① を押し、「#」（模様番号）を選びます。

「#」のランプ② が点灯します。

② 数値設定ボタン③ で、ぬいたい模様の番号を選びます。

※ ぬい目の幅、ぬい目のあかさの変更は 22 ページを
ごらんください。



◎ 実用ぬい

● 直線ぬい

ミシンのセット

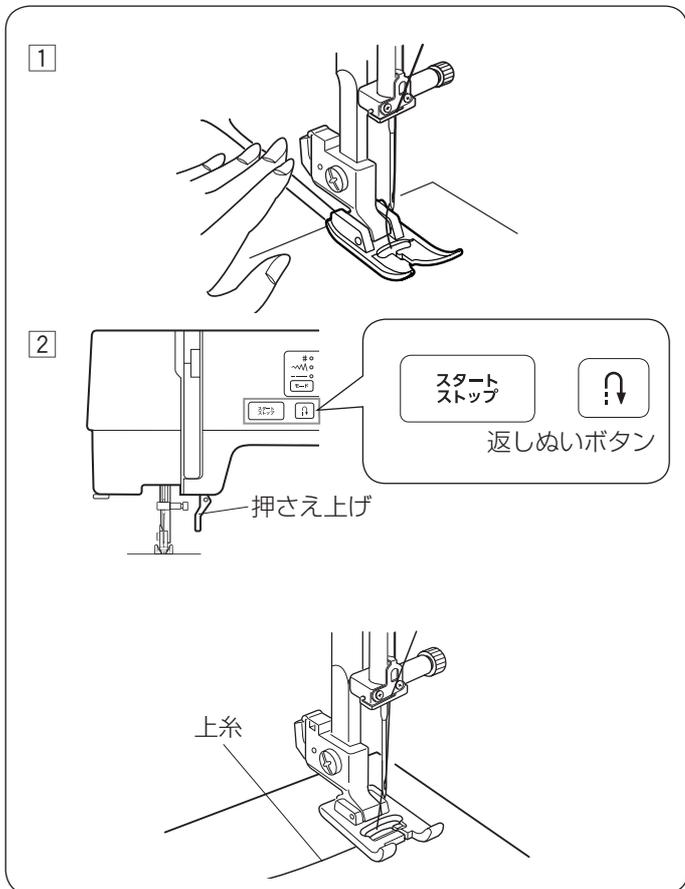
- ① 模様番号： 01 または 04
- ② 糸調子ダイヤル： 2～6
- ③ 押さえ： 基本押さえ A

★ ぬい始め

- ① 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。
- ② 押さえ上げをさげて、スタート/ストップボタンを押して、ぬい始めます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押します。

また、自動返しぬい模様  や自動止めぬい模様  を使う方法もあります。(23 ページ参照)

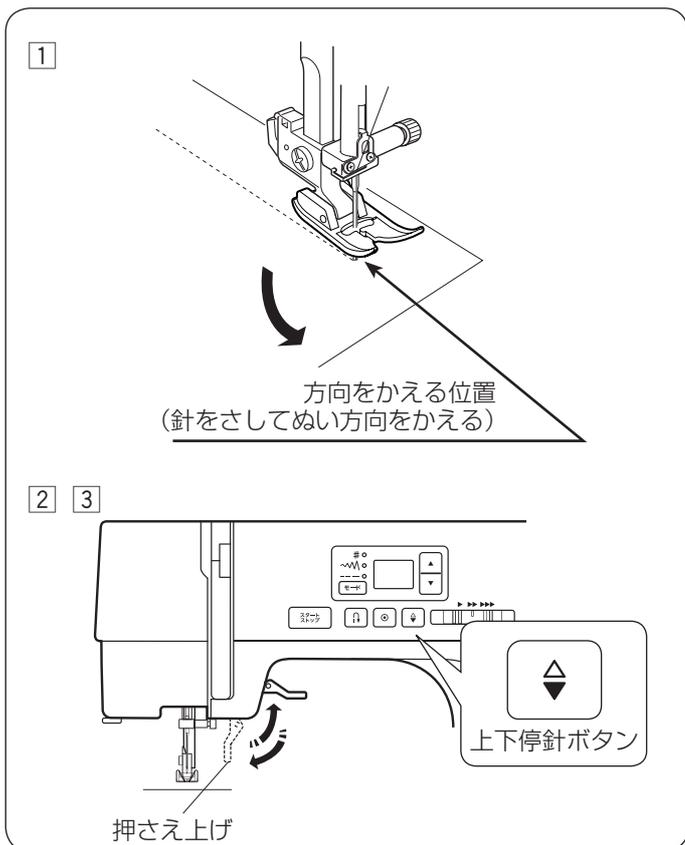


ぬい始めの糸の引き出し方

サテン押さえ F やボタンホール押さえなどのように、押さえの向こう側（うしろ側）の底があがっていて、糸を押さえる部分がない場合、ぬい始めの上糸は、横方向に引き出して押さえてください。
(イラストはサテン押さえ F)

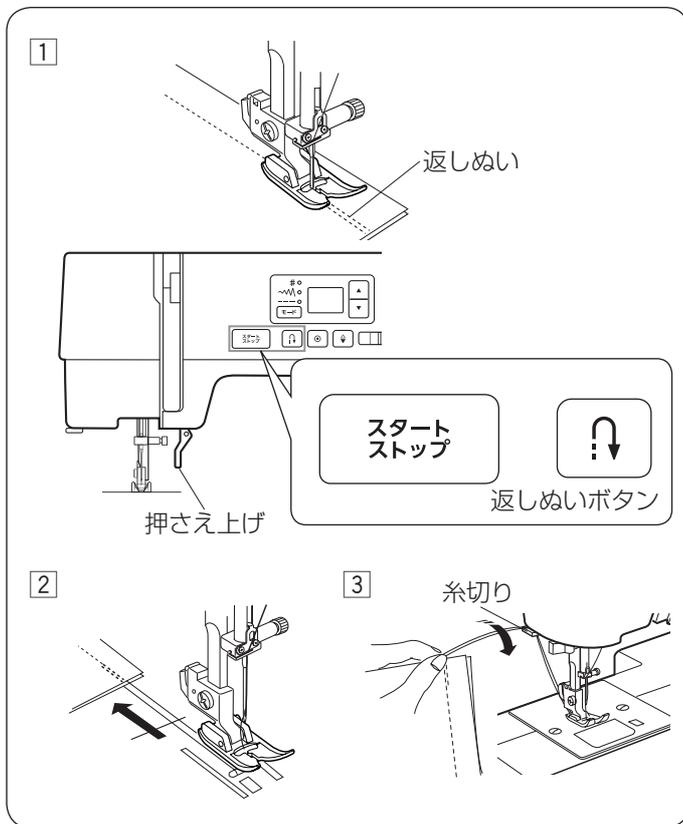
★ ぬい方向の変更

- ① 布の方向をかえる位置でミシンを止めます。



- ② 上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。
- ③ 針を布にさしたままぬい方向をかえ、押さえ上げをさげてぬい始めます。

※ ぬい位置がずれず、きれいにぬうことができます。



★ ぬい終わり

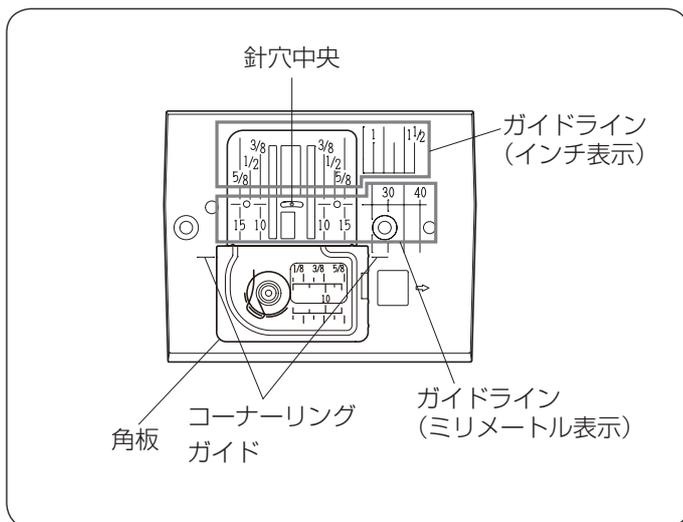
① ぬい終わりの位置で返しぬいボタンを押し、数針返しぬいをしてスタート/ストップボタンでミシンを止めます。

※ 自動返しぬい模様 $\begin{matrix} 02 \\ \updownarrow \\ \text{CP} \end{matrix}$ や自動止めぬい模様 $\begin{matrix} 03 \\ \updownarrow \\ \text{CP} \end{matrix}$ でぬっている場合、ぬい終わりの位置で返しぬいボタンを

一度押すと、返しぬいまたは止めぬいをして自動的にミシンが止まります。(23 ページ参照)

② 針があがった位置で押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

③ 布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。



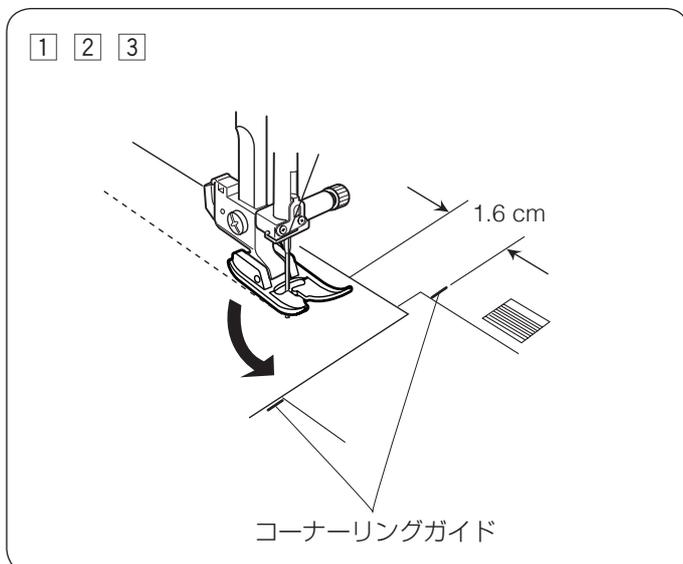
● 針板ガイドラインの利用

針板および角板には、布のぬい位置を決めるための便利なガイドラインが表示されています。

針板右側には、布端を合わせてぬうためのガイドラインが表示されています。

※ ガイドラインの数字は、ぬい位置 (針穴の中央) からガイドラインまでの距離を「インチ」と「ミリメートル」で表示しています。

布端をガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。



★ コーナーリングガイド

布端から 1.6 cm (5/8 インチ) のところで直角にぬい方向をかえるときに使います。

ぬい方向をかえたあと布端から 1.6 cm (5/8 インチ) の位置をぬうことができます。

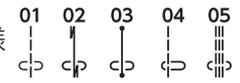
① 布端がコーナーリングガイドのところにきたらミシンを止めます。

② 針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、布を直角に回転させます。

布端が針板右側のガイドライン 1.6 cm (5/8 インチ) の位置に合います。

③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートさせます。

● 針位置をかえるとき（直線状模様）

直線状模様  は、針位置をかえることができます。

モード ボタンを押して、（ぬい目の幅モード）を選びます。

初期の状態（購入時のセット状態）の針位置は 2.5 です。

-  ボタンを押すと、表示される数値が小さくなり、針位置が左に移動します。
-  ボタンを押すと、表示される数値が大きくなり、針位置が右に移動します。

※ 直線状模様の場合、画面の数値は左の針位置からの距離の目安が表示されています。（単位：ミリメートル）
左針位置 0.0、中央針位置が 2.5、右針位置が 5.0 になります。

※ 画面の数値は、0.0 ～ 5.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。（単位：ミリメートル）

● ぬい目のあさをかえるとき（直線状模様）

モード ボタンを押して、（ぬい目のあさモード）を選びます。

初期値（購入時のセット状態）は模様  で

2.4、模様  が 2.5 です。

-  ボタンを押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細くなります。
-  ボタンを押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらかくなります。

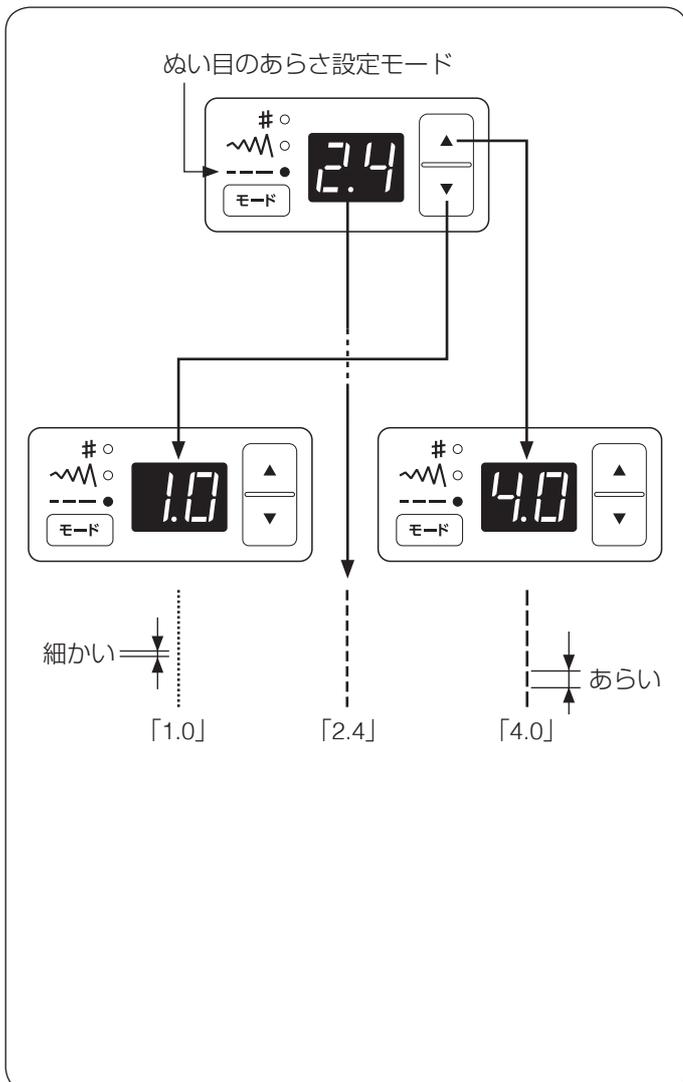
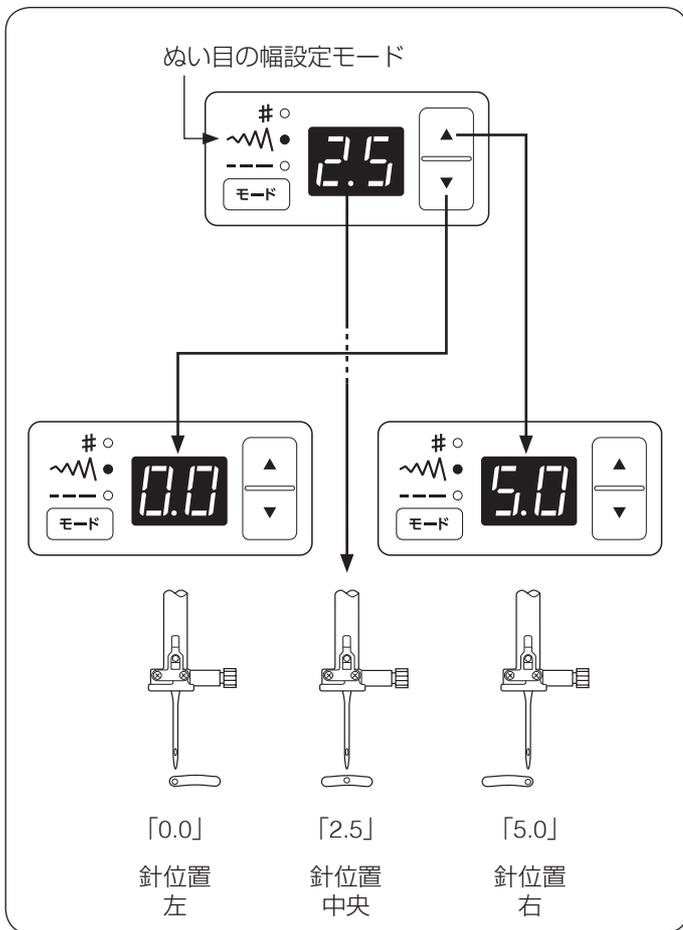
※ ぬい目のあさは、以下の範囲でかえられます。

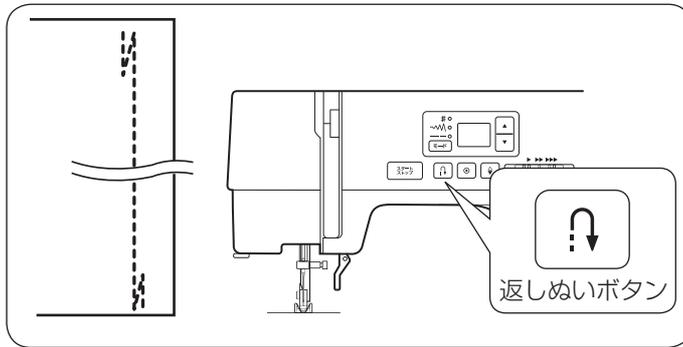
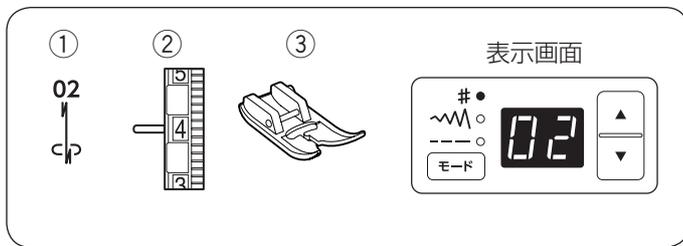
- 模様  は 0.0 ～ 4.0
- 模様  は 1.0 ～ 4.0
- 模様  は 1.0 ～ 2.5

※ 画面の数値は目安として表示されています。（単位：ミリメートル）

※ ぬい目のあさは、布や糸によってかわります。

※ 返しぬいのぬい目あさは、表示の数値より小さくなります。





● その他の直線状模様

★ 自動返しぬい

ミシンのセット

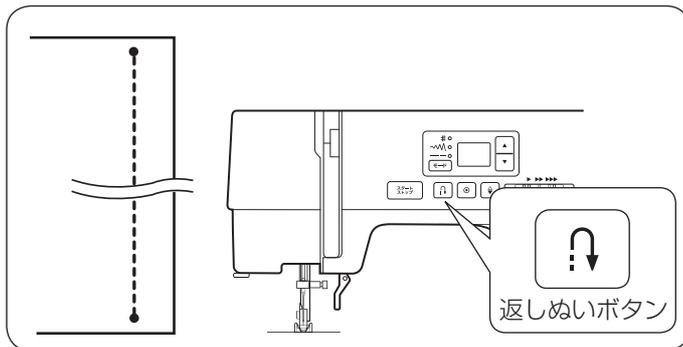
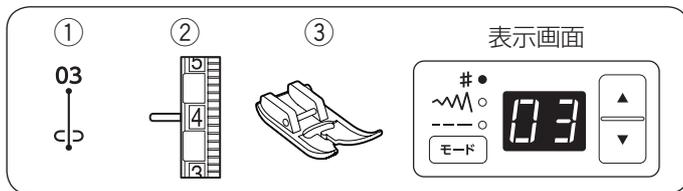
- ① 模様番号： 02
- ② 糸調子ダイヤル： 2～6
- ③ 押さえ： 基本押さえ A

ぬい始めとぬい終わりに、しっかりしたほつれ止めを自動的にを行います。

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に返しぬいをしたあと、直線ぬいをします。

ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを一度押します。

数針返しぬいをしてミシンは自動的に止まります。



★ 自動止めぬい

ミシンのセット

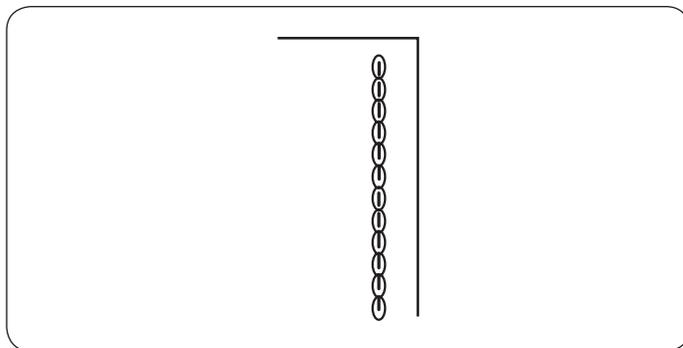
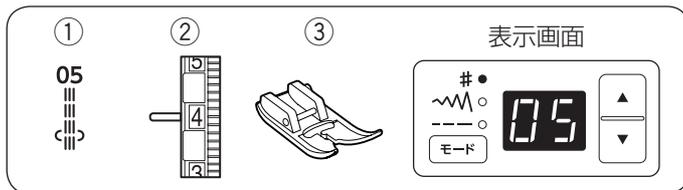
- ① 模様番号： 03
- ② 糸調子ダイヤル： 2～6
- ③ 押さえ： 基本押さえ A

ぬい始めとぬい終わりに、目立たない止めぬいを自動的にを行います。

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に止めぬいをしたあと、直線ぬいをします。

ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを一度押します。

止めぬいをしてミシンは自動的に止まります。



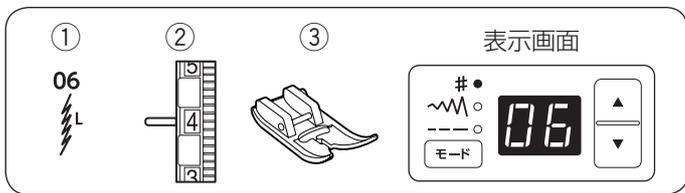
★ 三重ぬい

ミシンのセット

- ① 模様番号： 05
- ② 糸調子ダイヤル： 2～6
- ③ 押さえ： 基本押さえ A

伸縮性のある強いぬい目です。

ズボンの股、袖の付け根などや、特に強度が必要な場所の補強に使用します。



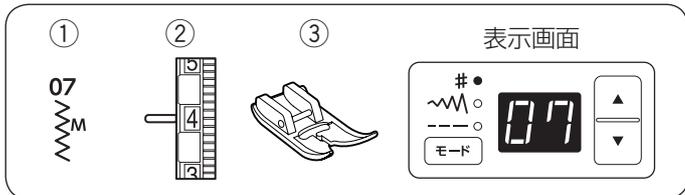
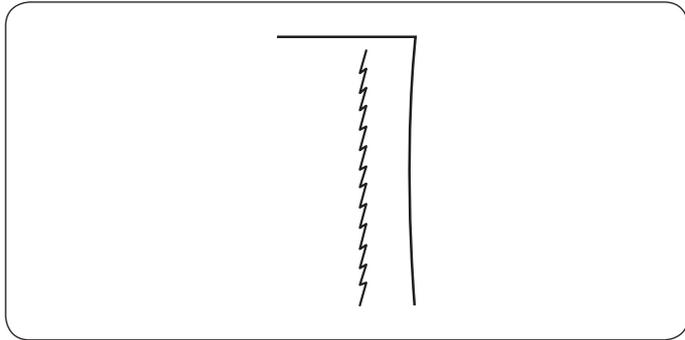
★ 伸縮ぬい

ミシンのセット

- ① 模様番号： 06
- ② 糸調子ダイヤル： 3～6
- ③ 押さえ： 基本押さえ A

布が伸びても糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

※ 模様の右に書かれている「L」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示しています。「L」は左針位置を基準（固定）にした模様で、ぬい目の幅をかえたときに、左針位置を基準（固定）に右に幅が変化します。（25 ページ参照）



● ジグザグぬい

ミシンのセット

- ① 模様番号： 07
- ② 糸調子ダイヤル： 3～7
- ③ 押さえ： 基本押さえ A

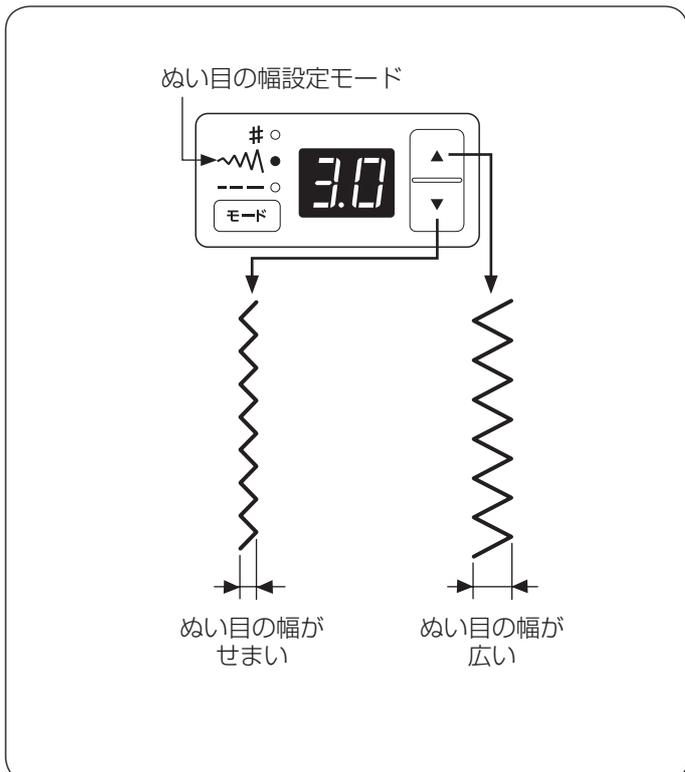
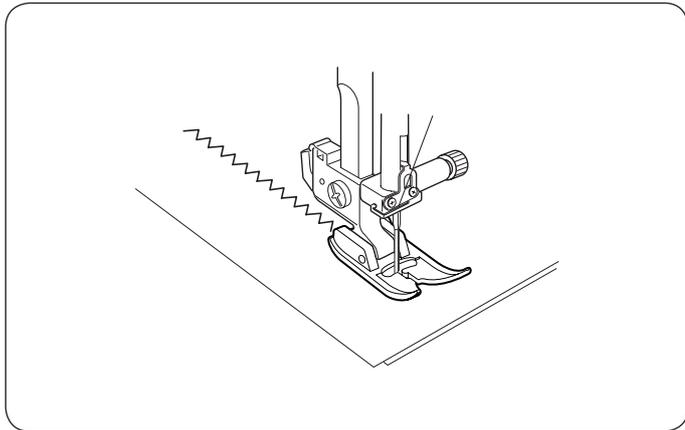
基本押さえ A でジグザグぬい（模様 ）をする場合、

試しぬいをして、ぬい縮みがでないようにぬい目の幅やぬい目のあらしさを調節します。

うす地の場合、ぬい目の幅 3.0、ぬい目のあらしさ 1.5 が目安です。

ジグザグぬいは、たち目かがりやボタン付けなど、いろいろなぬい方に利用できます。

※ 伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には芯地を貼るときれいにぬえます。



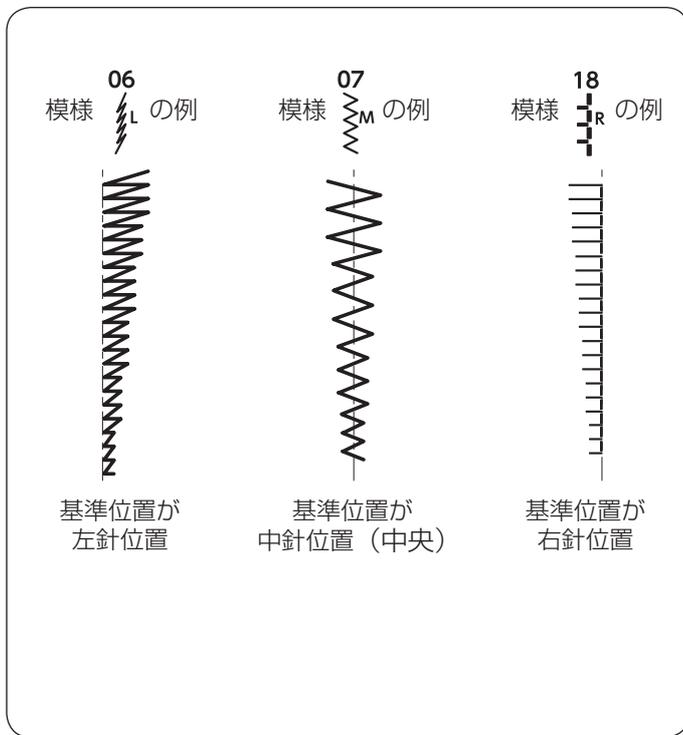
★ ぬい目の幅をかえるとき

モード ボタンを押して、（ぬい目の幅モード）を選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 3.0 です。

-  ボタンを押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目の幅がせまくなります。
-  ボタンを押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目の幅が広がります。

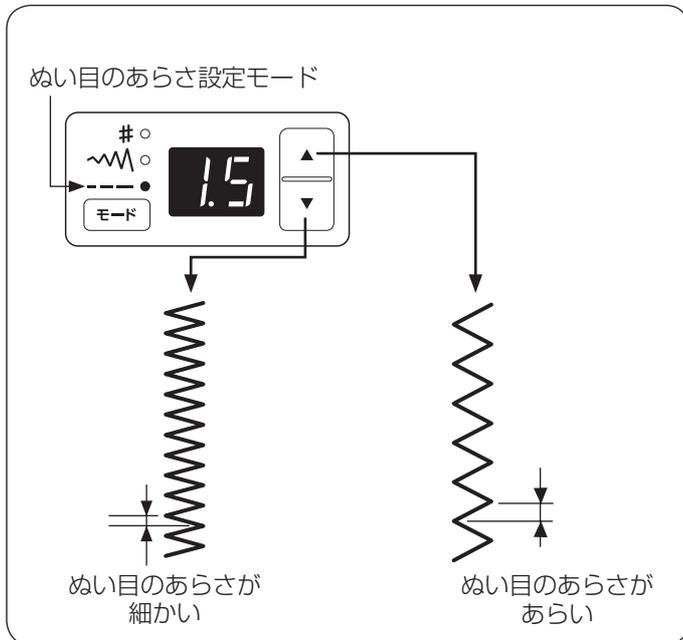
※ 0.0～5.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。（単位：ミリメートル、目安です。）



ぬい目の幅の基準位置

ミシンの模様番号のイラストの右に書かれている「L」、「M」、「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置です。

- 「L」：ぬい目の幅をかえたとき、左針位置を基準（固定）に右に幅が変化します。
- 「M」：ぬい目の幅をかえたとき、中針位置（中央）を基準（固定）に左右に幅が変化します。
- 「R」：ぬい目の幅をかえたとき、右針位置を基準（固定）に左に幅が変化します。



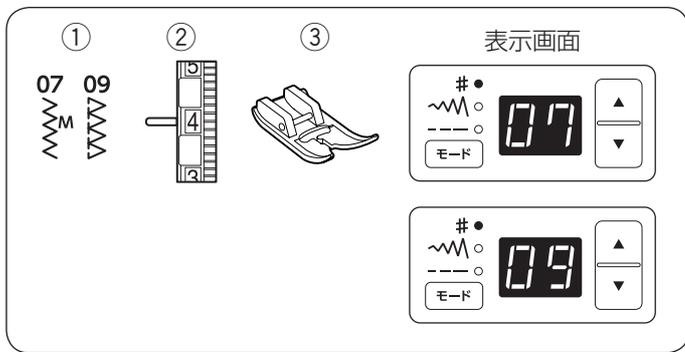
★ ぬい目のあらかさをかえるとき

モード ボタンを押して、---（ぬい目のあらかさモード）を選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 1.5 です。

- ボタンを押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細かくなります。
- ボタンを押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらかくなります。

※ 0.2 ～ 4.0 の範囲でかえることができます。
0.2 ～ 1.0 まで 0.1 ずつ、1.0 から 4.0 まで 0.5 ずつかえることができます。
(単位：ミリメートル、目安です。)



● たち目かがり

ミシンのセット

- ① 模様番号： 07 または 09
- ② 糸調子ダイヤル： 3～7
- ③ 押さえ： 基本押さえ A

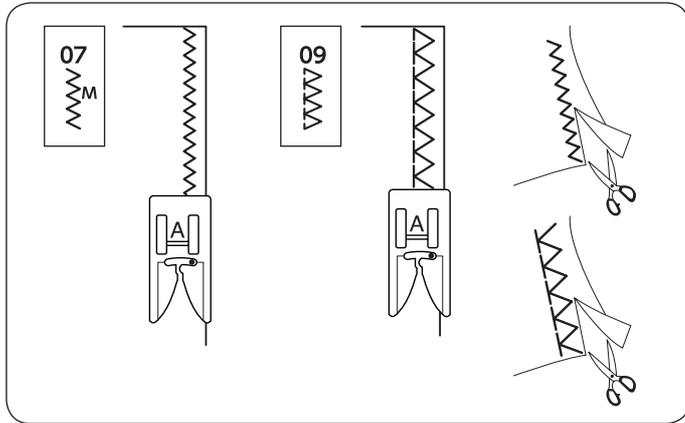
布端のほつれ止めとして広く利用します。

模様 は地ぬいをかねたかがりぬいで、普通地や平織り

2枚のたち目のほつれ止めに適しています。

試しぬいをして、ぬい縮みがでないようにぬい目の幅、ぬい目のあかさや糸調子を調節します。

ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。



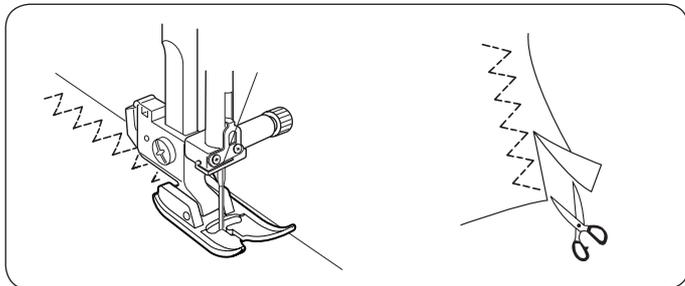
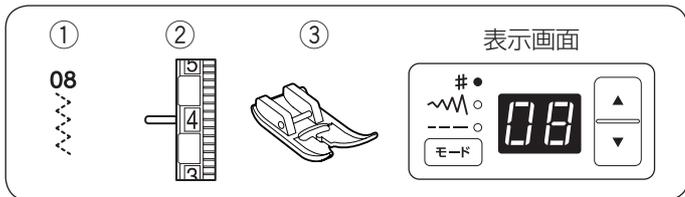
● トリコットぬい（三点ジグザグ）

ミシンのセット

- ① 模様番号： 08
- ② 糸調子ダイヤル： 3～6
- ③ 押さえ： 基本押さえ A

ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。

ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。



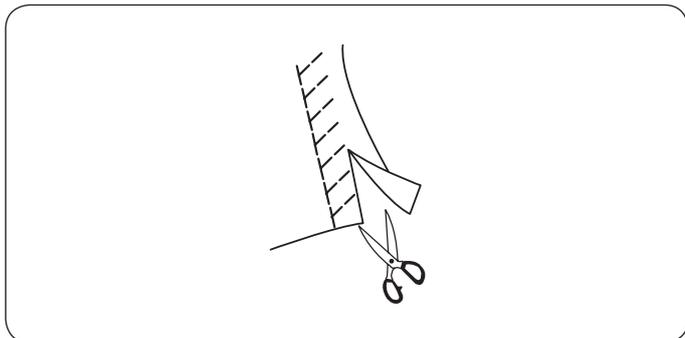
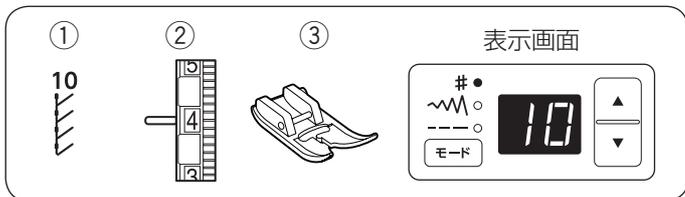
● ニットかがり

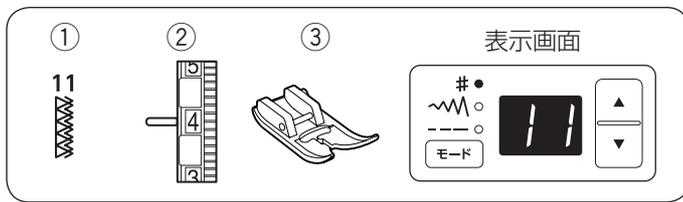
ミシンのセット

- ① 模様番号： 10
- ② 糸調子ダイヤル： 3～6
- ③ 押さえ： 基本押さえ A

ジャージー、ニット、トリコットなど伸びる布地の端をかがるのに使用します。

ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

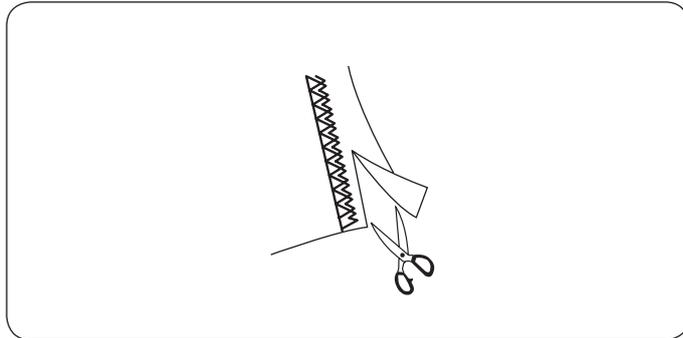




● かがりぬい

ミシンのセット

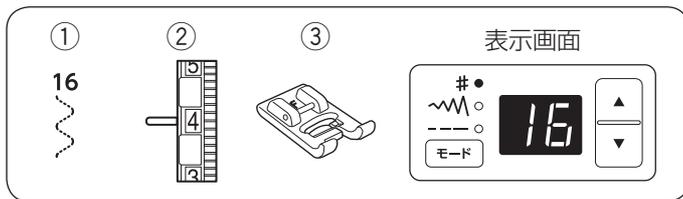
- ① 模様番号: 11
- ② 糸調子ダイヤル: 3～7
- ③ 押さえ: 基本押さえ A



リネンやギャバジンなど、普通の布や厚い布、およびほつれやすい布をかがるのに使用します。

ほつれを防ぐため、二重に布端をかがります。

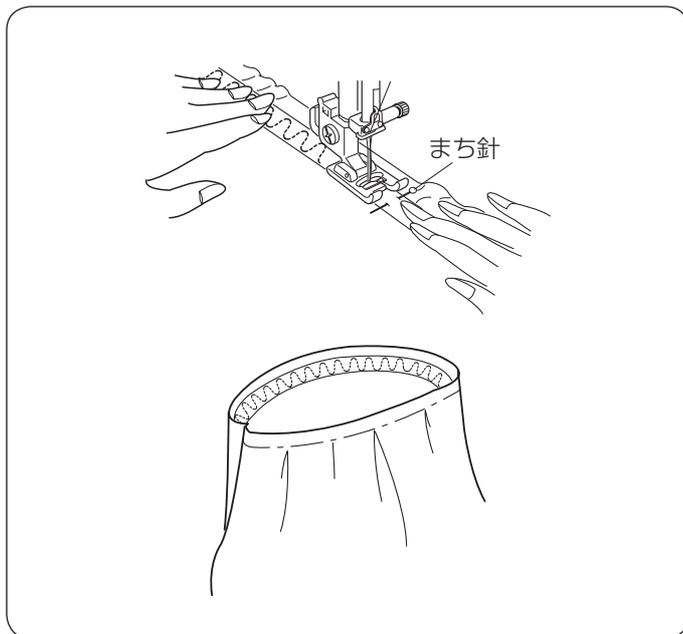
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。



● ゴムひも付け

ミシンのセット

- ① 模様番号: 16
- ② 糸調子ダイヤル: 1～4
- ③ 押さえ: サテン押さえ F



ゴムひもを、布の裏側にまち針で止めます。

ゴムひもは、伸ばした状態で等間かくに数カ所まち針でとめます。

ゴムひもを布と同じ長さに両手で伸ばしながら、ゴムひもの上をぬいます。

まち針の手前をぬう直前で一度ミシンを止め、まち針を抜いてから再びぬいます。

● ボタンホール

※ 最大 3 cm のボタンホールができます。

※ ボタンホールが完成すると、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

ボタンホールの注意事項

- 伸縮性のある布は、伸びないように裏に芯地を貼ってください。
- 使用する布の切れ端などで試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。
- ボタンホールをぬう場所に、必ずマーク（しるし）を付けてください。

★ ボタンホールのぬい

ミシンのセット

- | | |
|------------|-----------|
| ① 模様番号： | 17 |
| ② 糸調子ダイヤル： | 1～4 |
| ③ 押さえ： | ボタンホール押さえ |

- ① ミシンにボタンホール押さえを取り付けます。
(9 ページ参照)

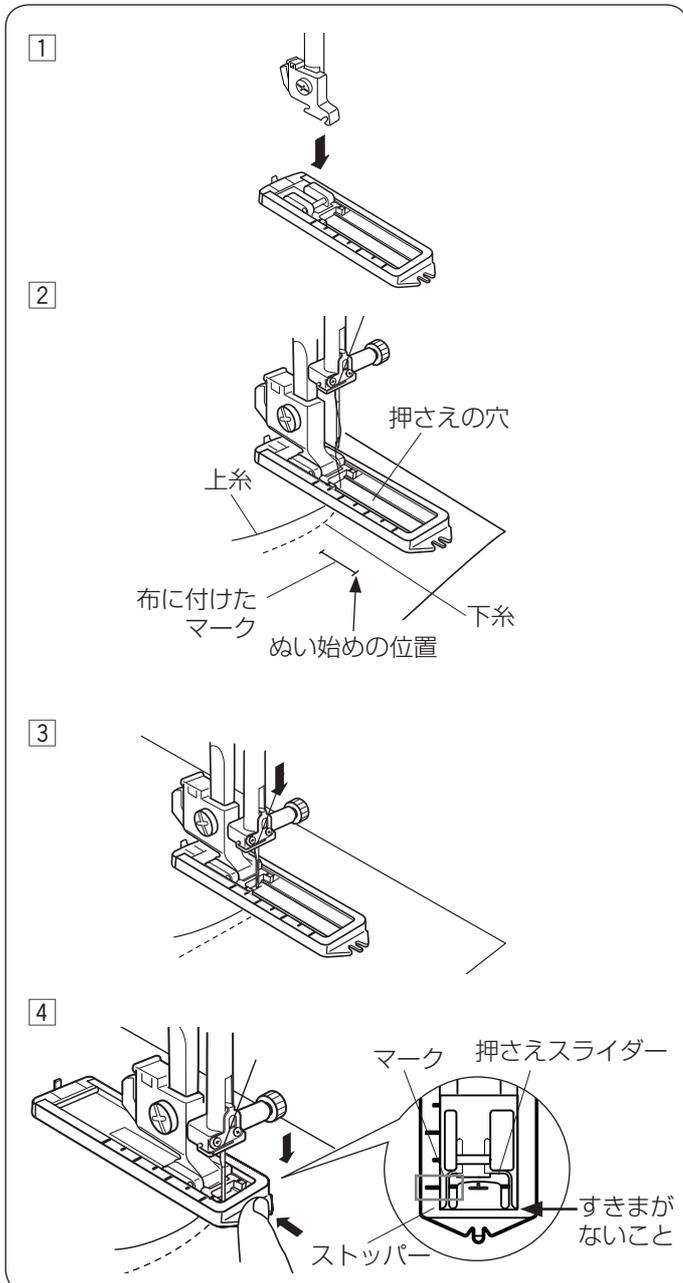
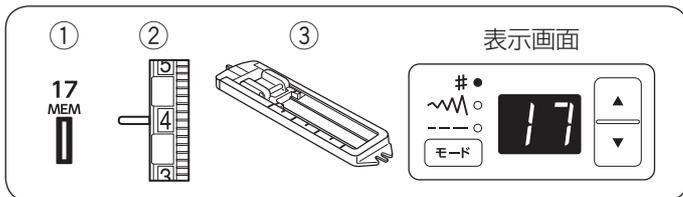
※ ボタンホール押さえを取り付けるとき、押さえ上げを高くあげた位置まで持ちあげると便利です。

- ② 上糸を押さえの穴から下に通し、下糸と一緒に横にそろえておき、ボタンホール押さえの下に布を入れます。

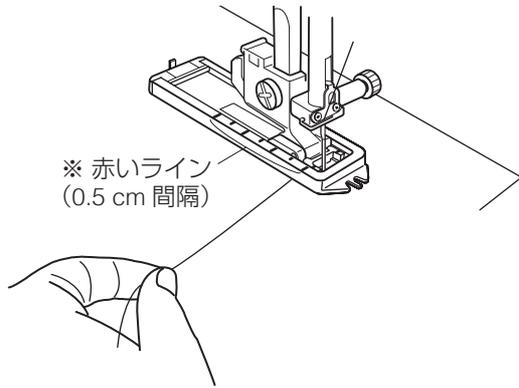
- ③ はずみ車を手前にまわし、布に付けたマークのぬい始めの位置に針をさします。

- ④ ボタンホール押さえを奥に押し、押さえスライダーストッパーにつきあたったら、押さえ上げを下げます。

※ 押さえスライダーとストッパーのマークを合わせ、押さえスライダーとストッパーのあいだにすきまがないことを確認します。

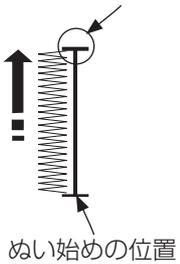


5

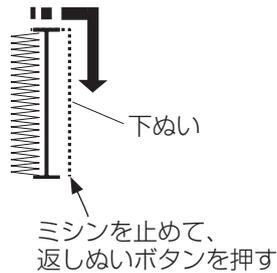


6

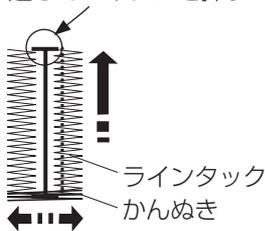
[1] ミシンを止めて、
返しぬいボタンを押す



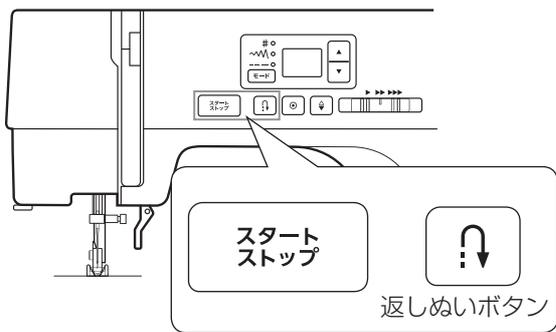
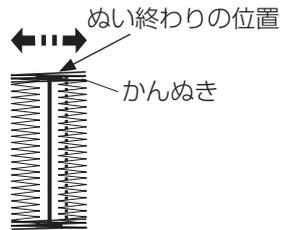
[2]



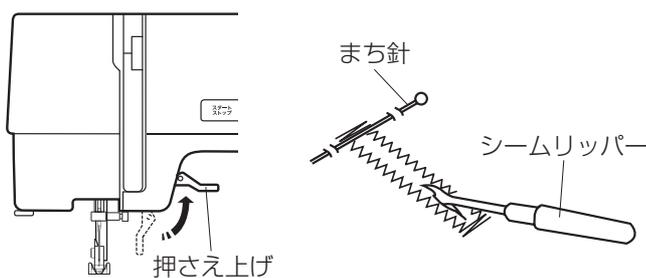
[3] ミシンを止めて、
返しぬいボタンを押す



[4]



7



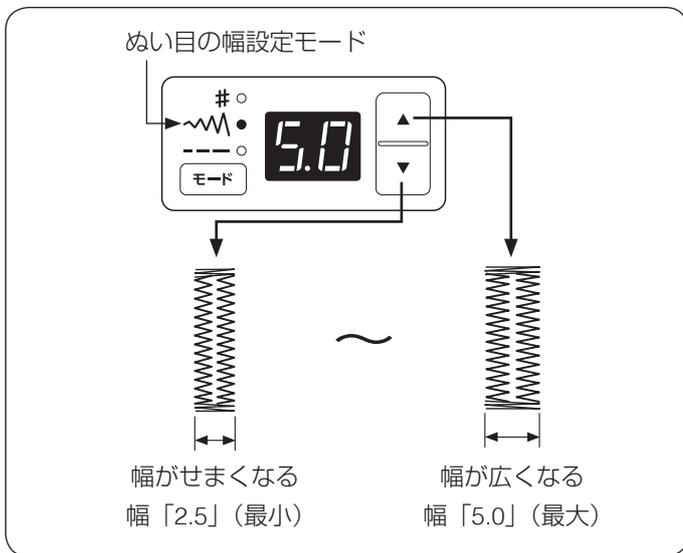
- 5 上糸を横に軽く引いて持ち、ミシンをスタートさせます。
ぬい始めから数針ぬったあと、糸から手をはなします。
※ ボタンホール押さえの赤いラインは、0.5 cm 間隔
(最大 3 cm) です。ボタンホールのサイズの目安に利用
できます。

- 6 下記の順番でボタンホールをぬいます。
- [1] 左側のラインタックを必要な長さまでぬい、
スタート/ストップボタンでミシンをとめます。
返しぬいボタンを押します。
- [2] スタート/ストップボタンを押してミシンを
スタートさせると、下ぬいが行われます。
ぬい始めの位置にもどったら、スタート/
ストップボタンでミシンをとめ、返しぬい
ボタンを押します。
- [3] スタート/ストップボタンを押してミシンを
スタートさせると、かんぬきと右側のライン
タックがぬわれます。
必要な長さの位置までもどったら、スタート/
ストップボタンでミシンをとめます。
返しぬいボタンを押します。
- [4] スタート/ストップボタンを押してミシンを
スタートさせると、かんぬきと止めぬいが
行われ、ミシンは自動的に止まります。

- 7 ぬい終わったら、押さえ上げをあげ、布を向こう側に
引き出して糸を切ります。(21 ページ参照)
かんぬきの内側にまち針をわたし、シームリッパーで
左右のラインタックの糸を切らないよう、ボタン穴を
開けます。

- ※ ミシンはボタンホールの長さを記憶しています。
別の場所に同じ長さのボタンホールをぬう場合は、布
の位置を変えてミシンをスタートしてください。
※ 違う長さのボタンホールぬう場合、一度ほかの模様を

選び、再度ボタンホール模様  を選びます。



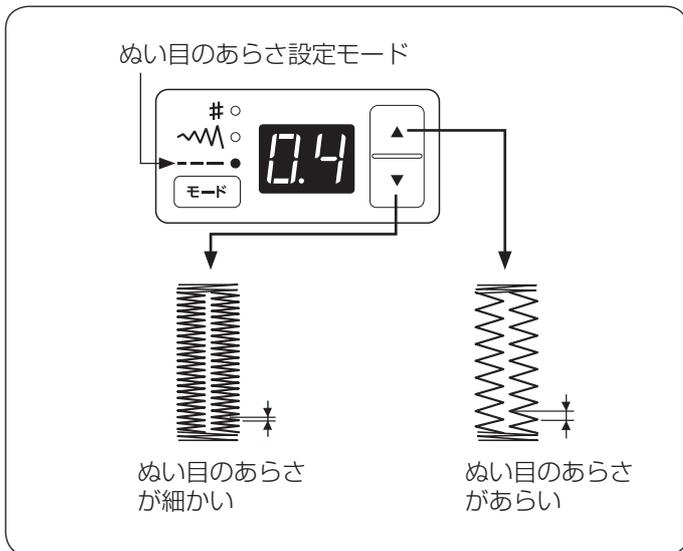
★ ぬい目の幅 (ボタンホールの幅) をかえる

モード ボタンを押して、 (ぬい目の幅モード) を選びます。ボタンホール全体の幅をかえることができます。

初期値 (購入時のセット状態) は 5.0 です。

- ボタンを押すとボタンホール全体の幅が広がります。
- ボタンを押すとボタンホール全体の幅がせまくなります。

※ 2.5 ~ 5.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。
(単位: ミリメートル、目安です。)



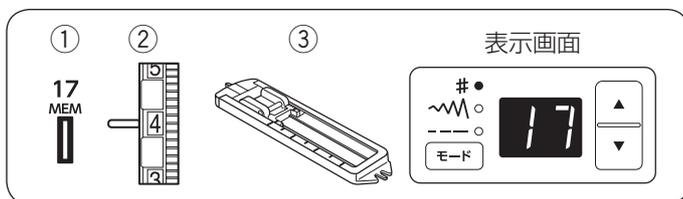
★ ぬい目のあらしをかえる

モード ボタンを押して、 (ぬい目のあらしモード) を選びます。ボタンホールのぬい目のあらしをかえることができます。

初期値 (購入時のセット状態) は 0.4 です。

- ボタンを押すとボタンホールのぬい目があらくなります。
- ボタンを押すとボタンホールのぬい目が細かくなります。

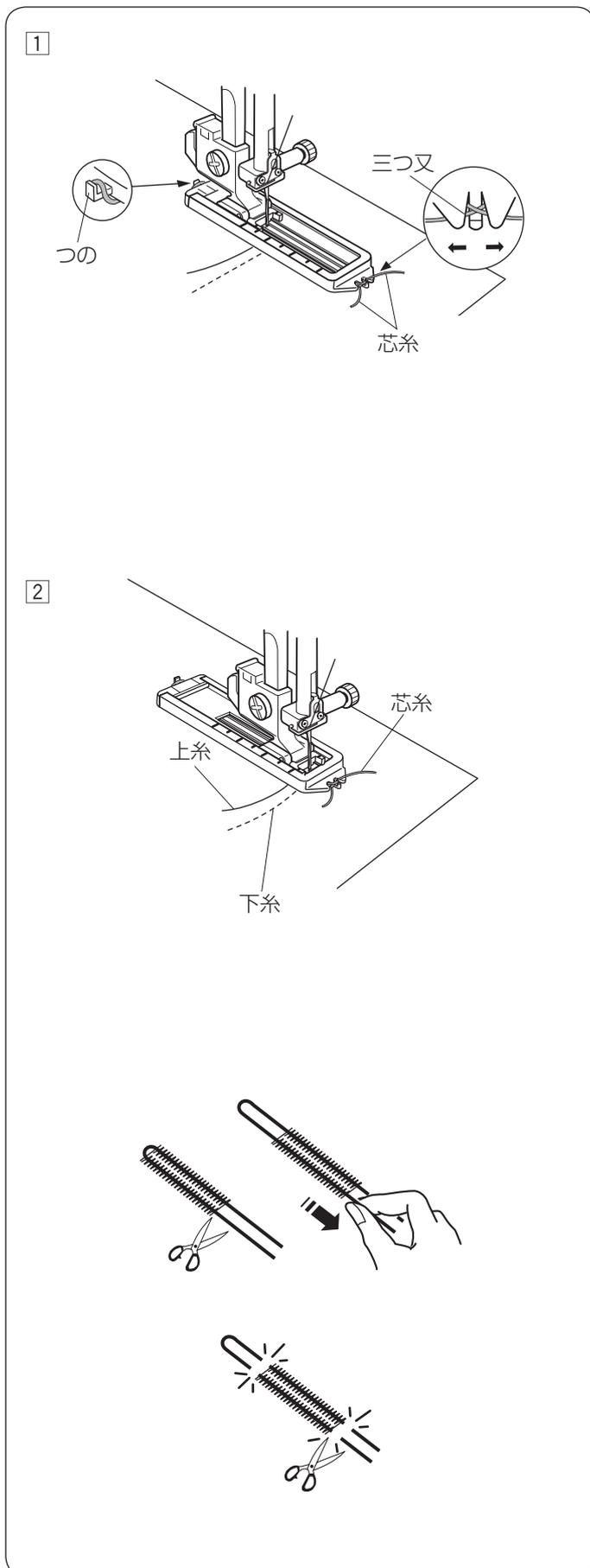
※ 0.2 ~ 0.8 の範囲で 0.1 ずつかえることができます。



● 芯入りボタンホール

ミシンのセット

- ① 模様番号： 17
- ② 糸調子ダイヤル： 1～4
- ③ 押さえ： ボタンホール押さえ



- ① 芯糸の中央を押さえのうしろ側にあるつのにかけます。芯糸を押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

※ ぬい目の幅は、芯糸の太さに合わせて設定します。芯糸は、たるみのないように強く張ってください。

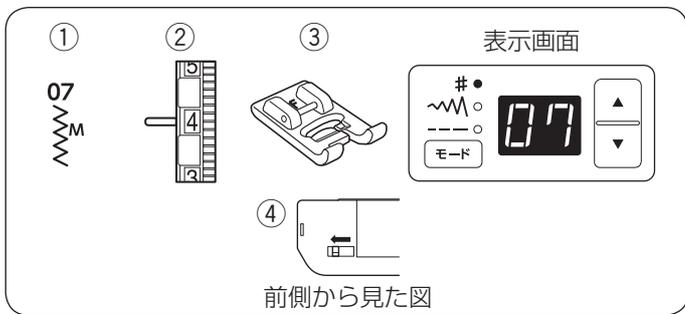
- ② 芯入りボタンホールをぬいます。

※ ぬい方はボタンホールと同じです。
(28～30ページをごらんください。)

- ③ 左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な糸を切ります。

※ 穴の開け方は、29ページをごらんください。

※ 左側の芯糸が引けない場合は、前後の芯糸を切ります。



● ボタン付け

ミシンのセット

- ① 模様番号 : 07
- ② 糸調子ダイヤル : 3 ~ 7
- ③ 押さえ : サテン押さえ F
- ④ 送り歯ドロップつまみ : さげる位置

【準備】

- 定規などで、ボタンの左右の穴の間かくをはかります。
- **モード** ボタンを押して、 (ぬい目の幅モード) を選びます。 ボタンでボタンの左右の穴の間かくと同じ値に設定します。
- 送り歯を下げます。(9 ページ参照)

※ ぬい始めに自動的に止めぬいを入れるため、必ず模様 を選んだ直後にぬいます。一度でも模様をぬったあとに行くと、ぬい始めに止めぬいが入りません。

【ぬい】

- ① ボタンを押さえの下に置き、はずみ車を手で手前にまわしてボタンの左の穴に針をさします。
- ② ボタンの左右の穴が真横になるようにボタンを置き、押さえ上げを下げます。
※ ボタンが押さえで固定されていることを確認します。不安定だとボタンがずれて針が折れる恐れがあります。
- ③ はずみ車を手で手前にまわすと、左側の穴を数回ぬったあと針が右側に移動します。針がボタンにあたらず、ボタンの右の穴に入ることを確認します。
※ はずみ車を手前にまわすと、最初に止めぬいを行うために左側の穴だけを数回ぬいます。

⚠ 注意

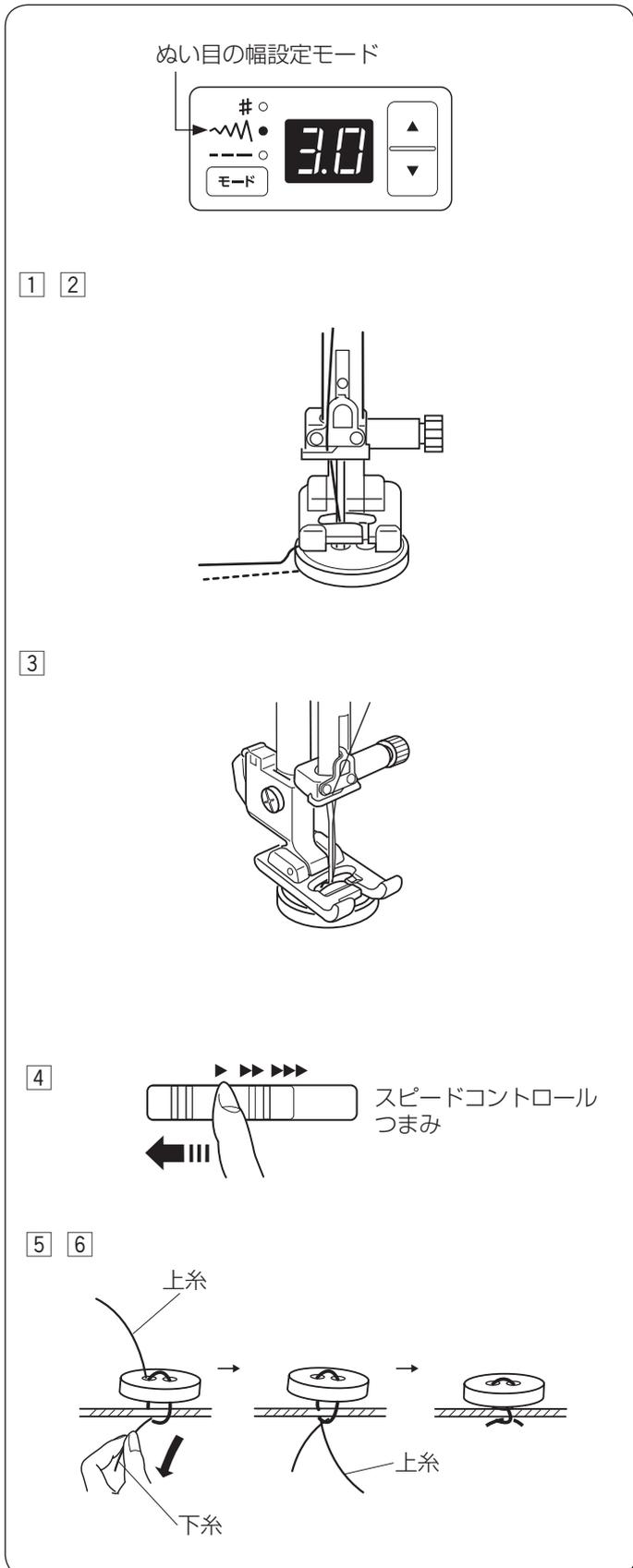
必ず針がボタンの穴の左右におりることを確認してください。ボタンに針があたると針が折れ、けがの原因となります。

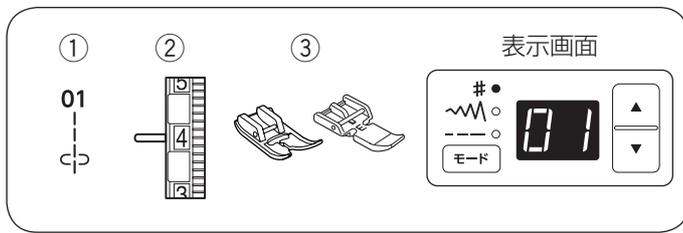
- ④ スピードコントロールつまみをゆっくりの位置にし、ミシンをスタートします。
10 針くらいぬったらミシンを止めます。

- ⑤ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を 10 cm ~ 20 cm 残して切ります。
※ ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

- ⑥ ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結んでから切ります。

※ ぬい終わったら送り歯ドロップつまみを「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認します。(9 ページ参照)





● ファスナー付け

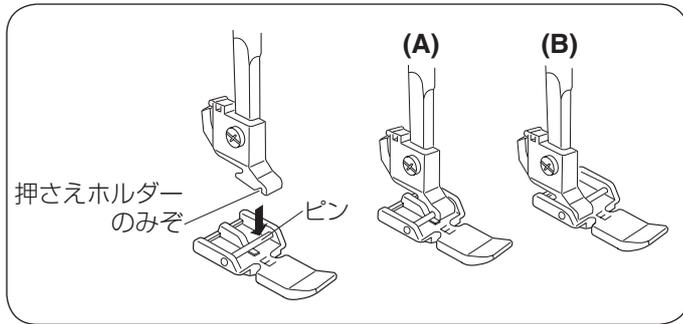
ミシンのセット

- ① 模様番号: 01
- ② 糸調子ダイヤル: 2～6
- ③ 押さえ: 基本押さえ A
ファスナー押さえ E

【ファスナー押さえの付け方】

押さえホルダーのみぞとファスナー押さえ E のピンを合わせて取付けます。

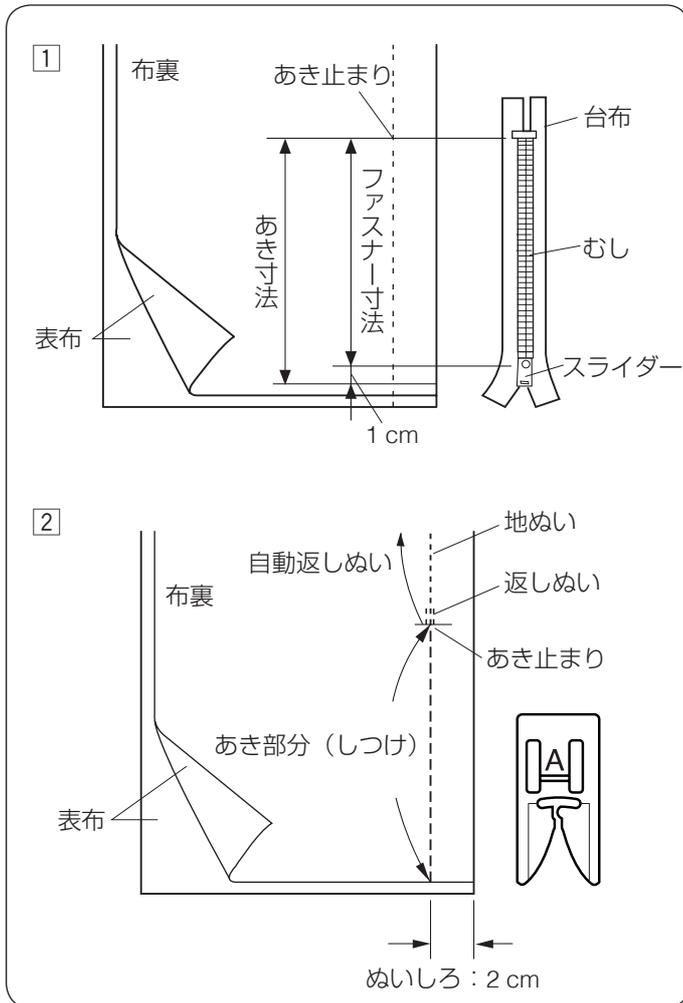
- (A): ファスナーのむしの左側をぬうときは、ファスナー押さえの右側のピンを押さえホルダーに取り付けます。
- (B): ファスナーのむしの右側をぬうときは、ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーに取り付けます。



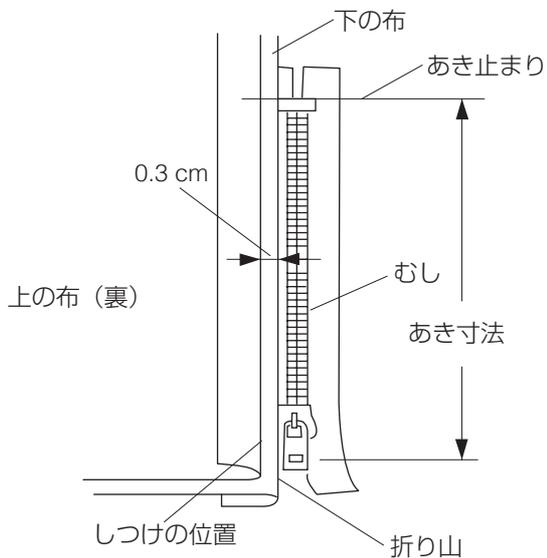
【準備】

- ① ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に 1 cm プラスした寸法です。
- ② しつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。地ぬいの部分は、基本押さえ A を使ってぬいます。あき部分は、ぬい目のあかさ 4.0 でしつけぬいをします。

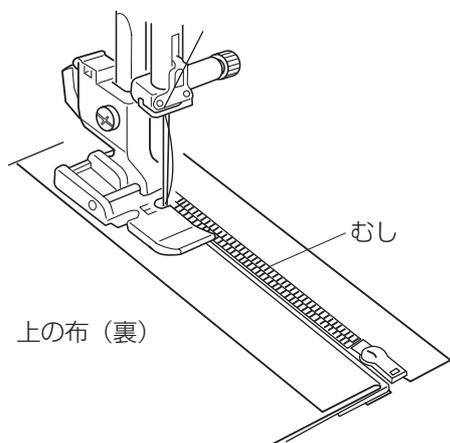
※ しつけは、ほどこしやすいよう、ぬい目のあさを「4.0」、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。しつけが終わったら、ぬい目のあかさおよび、糸調子ダイヤルをもとにもどします。
(22 ページ「ぬい目のあさをかえるとき (直線状模様)」参照)
(11 ページ「糸調子の合わせ方」参照)



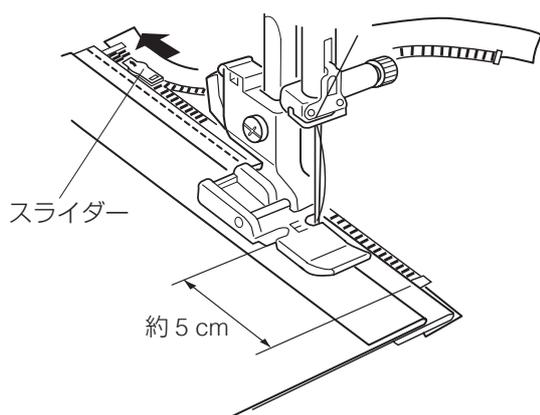
①



②



③



【ぬい】

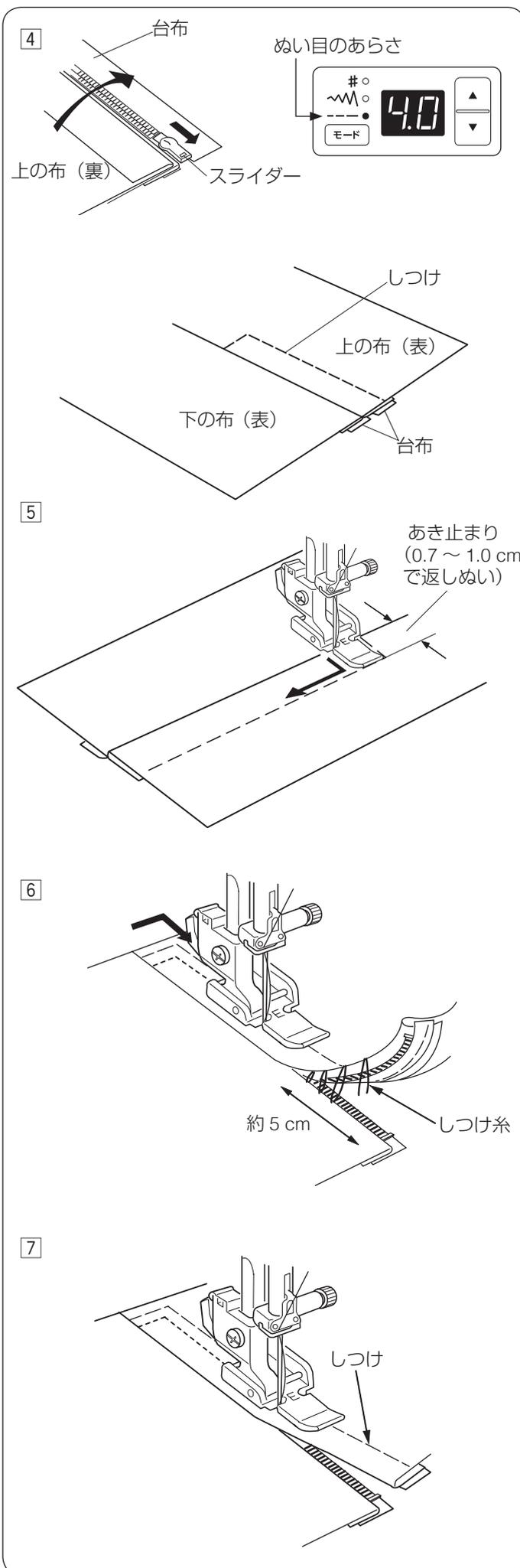
- ① めいしろを割り、下の布のめいしろを 0.3 cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

- ② ファスナー押さえの右側のピンを押さえホルダーに取り付けます。
むしのきわを押さえの端（右側段部）にあて、あき止まりからファスナーの左側をぬいます。
※ めい始めに数針、ほつれ止めの返しぬいをします。

⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえにあたらないように注意してください。
針があたると、けがの原因となります。

- ③ ファスナーの端から約 5 cm ほど手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。
※ めい終わりに数針、ほつれ止めの返しぬいをします。



4 ファスナーを閉じ、スライダを上にあたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。

かぶせた布と台布をしつけて止めます。

※ しつけは、基本押さえ A を使用します。

しつけは、ほどこしやすいよう、ぬい目のあらしさを「4.0」、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。

しつけが終わったら、ぬい目のあらしさおよび、糸調子ダイヤルをもとにもどします。

(22 ページ「ぬい目のあらしさをかえるとき (直線状模様)」参照)

(11 ページ「糸調子の合わせ方」参照)

5 ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーに取り付けます。

上の布のあき止まりを 0.7 ~ 1.0 cm ほど返しぬいをしてから、むしのきわを押さえの端 (左側段部) にあて、ファスナーの右側をぬいます。

⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえにあたらぬように注意してください。
針があたると、けがの原因となります。

6 ファスナーの上側を 5 cm くらい残したところでミシンを止めます。

針をさした状態で、押さえ上げをあげ、【準備】の手順 ② (33 ページ参照) でぬったしつけ糸をほどこし、スライダを押さえの向こう側にずらします。

7 押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

ぬい終わったら手順 ④ でぬったしつけをほどこします。

● まつりぬい

ミシンのセット

- ① 模様番号： 12 または 13
- ② 糸調子ダイヤル： 1～4 (模様 )
3～6 (模様 )
- ③ 押さえ： 基本押さえ A

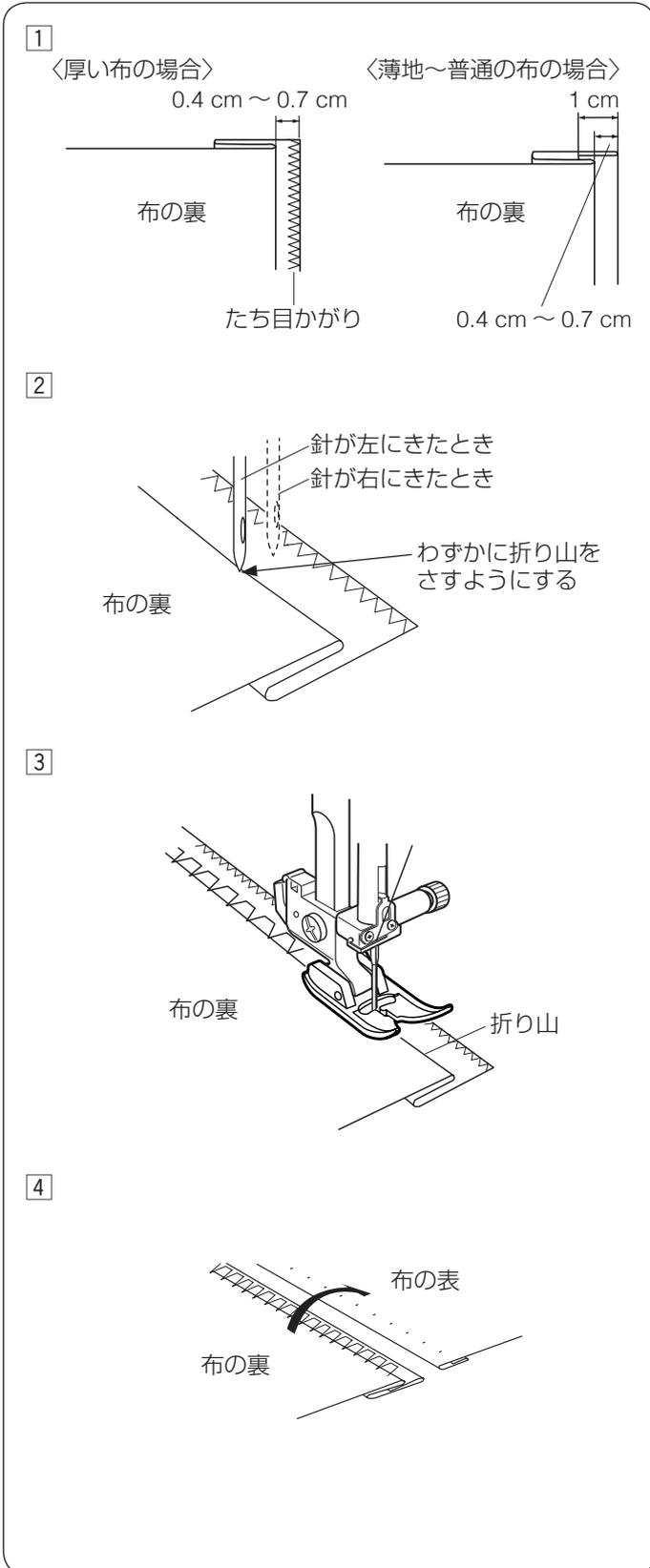
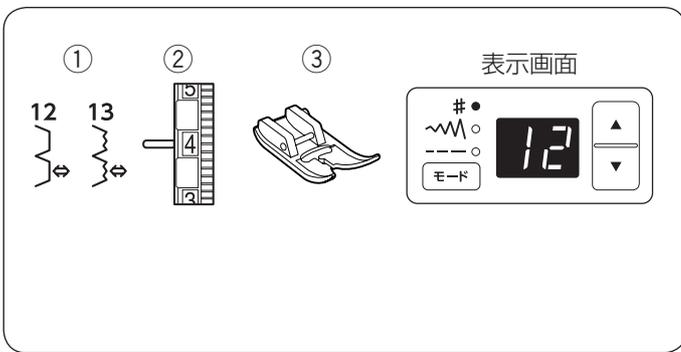
- ① 布の裏を表にして下に折り込み、布端を 0.4～0.7 cm ほどはみ出させ、図のように折ります。

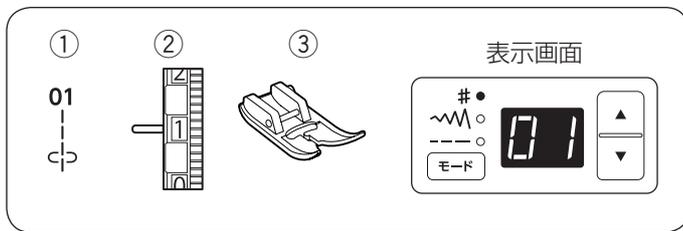
- ② はずみ車を手前にまわし、針が最も左にきたときに、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえ上げをさげます。

- ③ 針が折り山からはずれないようにぬいます。

※ 左側におりる針が必要以上に折り山にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにません。針が折り山から外れないように、また必要以上に針が折り山にかかりすぎないように、布の位置を調節します。

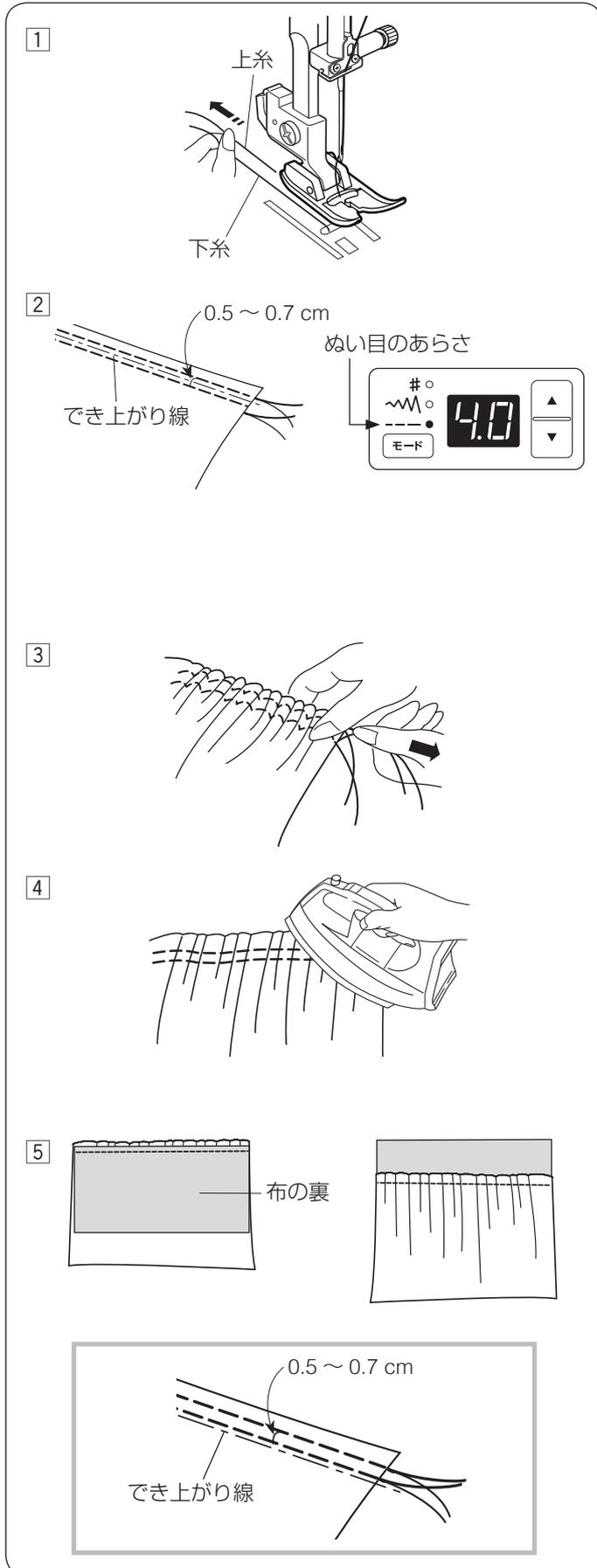
- ④ ぬい終わったら布を表に戻します。





● ギャザー ミシンのセット

- ① 模様番号： 01
- ② 糸調子ダイヤル： 1～4
- ③ 押さえ： 基本押さえ A



- ① 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約 10 cm ほど引き出しておきます。
※ 下糸を針板の上に引き出す方法は、18 ページの「下糸を引きあげる」をごらんください。

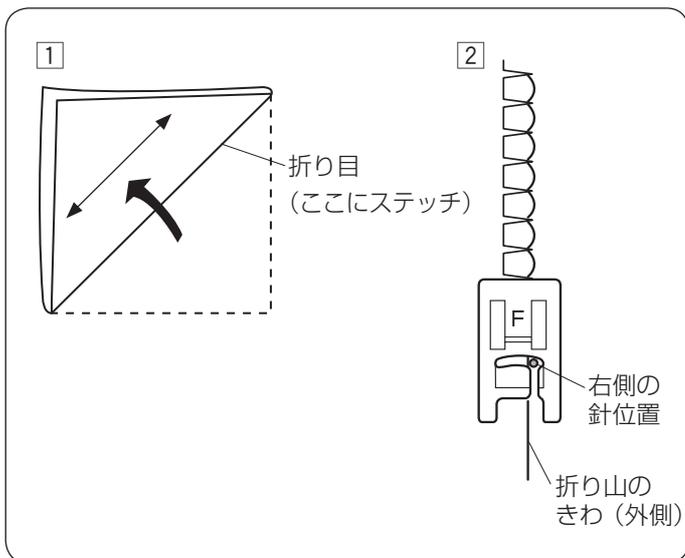
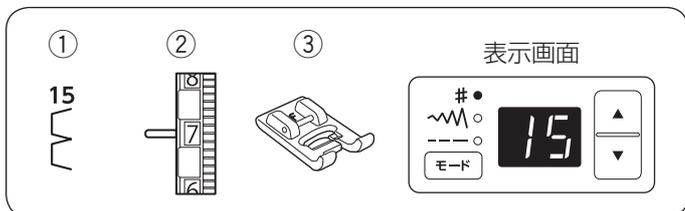
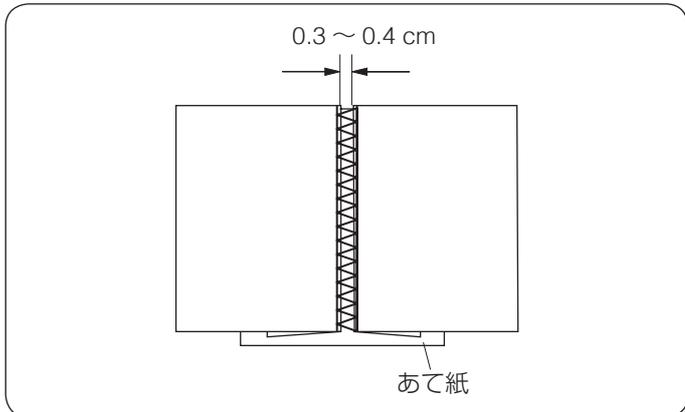
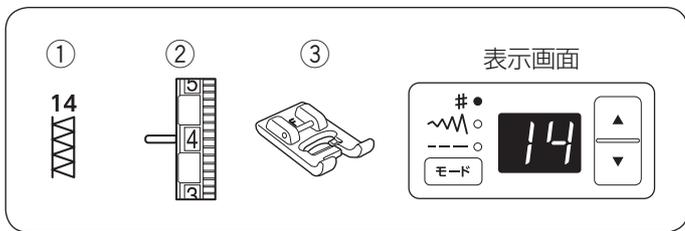
- ② 糸調子を「1」、ぬい目のあらかさを「4.0」に設定します。図のようにでき上がり線をはさんで 0.5～0.7 cm の間かくで 2 本の直線を平行にしつけぬいをします。押さえ上げをあげて、布を引き出し、上糸と下糸を 5 cm くらい残して切ります。
(22 ページ「ぬい目のあらかさをかえるとき (直線状模様)」参照)
(11 ページ「糸調子の合わせ方」参照)

- ③ ぬい始めの糸を結んでから、ぬい終わりの下糸を 2 本一緒に引いて、布を縮めます。

- ④ ぬい終わりの糸をそれぞれ結び、ギャザーを整えてからアイロンをかけます。

- ⑤ ギャザーを布にぬい付けます。
ぬい目のあらかさおよび、糸調子ダイヤルをもとにもどり、でき上がり線をぬって、しつけを取ります。

※ しつけを取ったときの針穴が気になる場合、でき上がり線の上側に 2 本しつけをして、ギャザーを寄せます。



◎ 応用ぬい

● ファゴティング

ミシンのセット

- ① 模様番号： 14
- ② 糸調子ダイヤル： 3 ~ 6
- ③ 押さえ： サテン押さえ F

2枚の布のすきまをあけて、つなぎ合わせることができます。
 布の端を 1.5 cm ほど裏側に折り、アイロンをかけます。
 布端と布端の間かくを 0.3 ~ 0.4 cm あけて、下にあて紙をします。

布の表から間かくの中央を中心にしてぬいます。
 あて紙を取ります。

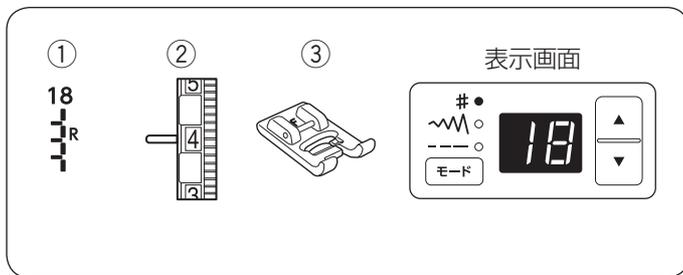
● シェルタック

ミシンのセット

- ① 模様番号： 15
- ② 糸調子ダイヤル： 6 ~ 8
- ③ 押さえ： サテン押さえ F

トリコットなど、うすい布に使用します。
 図のように布を折り、折り目にステッチします。

- ① 布をバイヤスに 2 つ折りにします。
 - ② 右側の針位置が布の折り山のきわ (外側) になるようにぬいます。
 布をひらき、アイロンで山を片側にたおします。
- ※ 試しぬいをして、シェルタックの山がきれいになるよう糸調子を調節します。
- ※ シェルタックをいくつか並べてぬう場合、最低 1.5 cm あいだをあけてください。

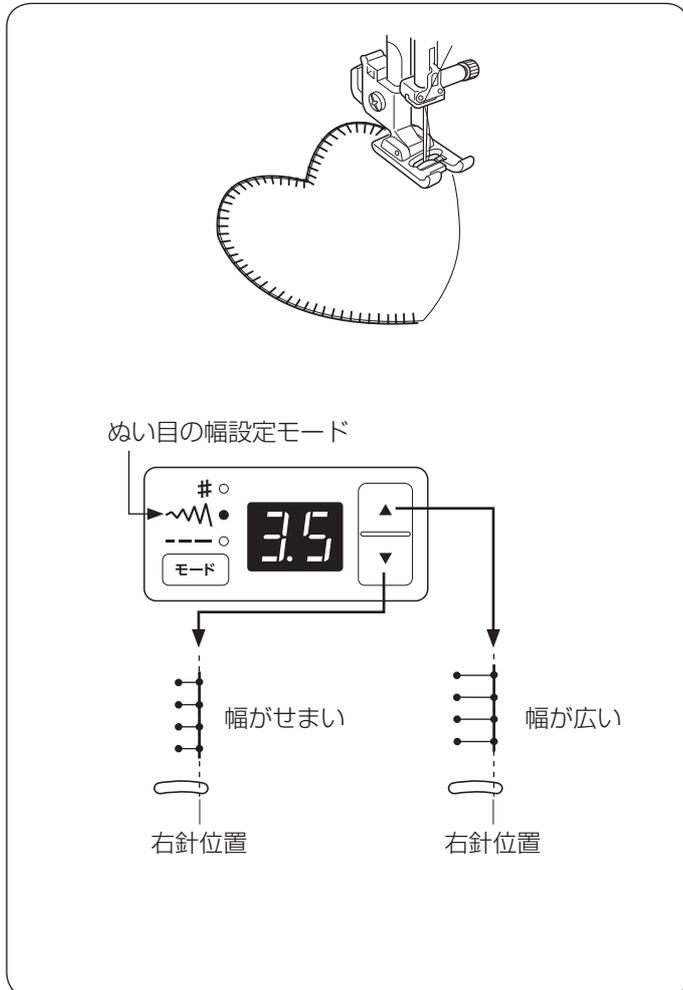


● アププリケ

ミシンのセット

- ① 模様番号： 18
- ② 糸調子ダイヤル： 1～4
- ③ 押さえ： サテン押さえ F

※ 模様 なども使えます。



アププリケ布をのり付けするか、しつけで止めます。
針をアププリケ布の外側に落とし、アププリケ布のふちをぬっていきます。

※ カーブのところや方向転換するところでは、アププリケ布の外側に針がささった状態で、ミシンを止めます。
上下停針ボタンを押して針を下位置にします。
押さえ上げをあげ、針を布にさしたまま方向をかえます。

【ぬい目の幅をかえるとき】

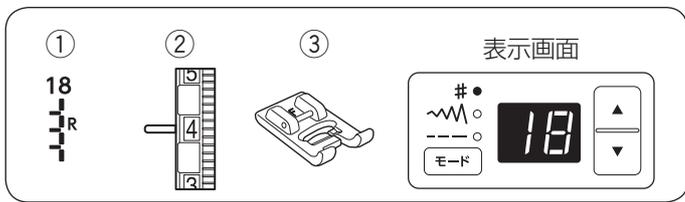
モード ボタンを押して、 (ぬい目の幅モード) を選びます。

初期値 (購入時のセット状態) は「3.5」です。

- ボタンを押すと値が大きくなり、右針位置を基準 (固定) に左針位置が左に移動して模様の幅が広がります。
- ボタンを押すと値が小さくなり、右針位置を基準 (固定) に左針位置が右に移動して模様の幅がせまくなります。

※ 模様の右に書かれている「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置です。(25 ページ参照)

※ 1.0～5.0の範囲で0.5ずつかえることができます。
(単位：ミリメートル、目安です。)



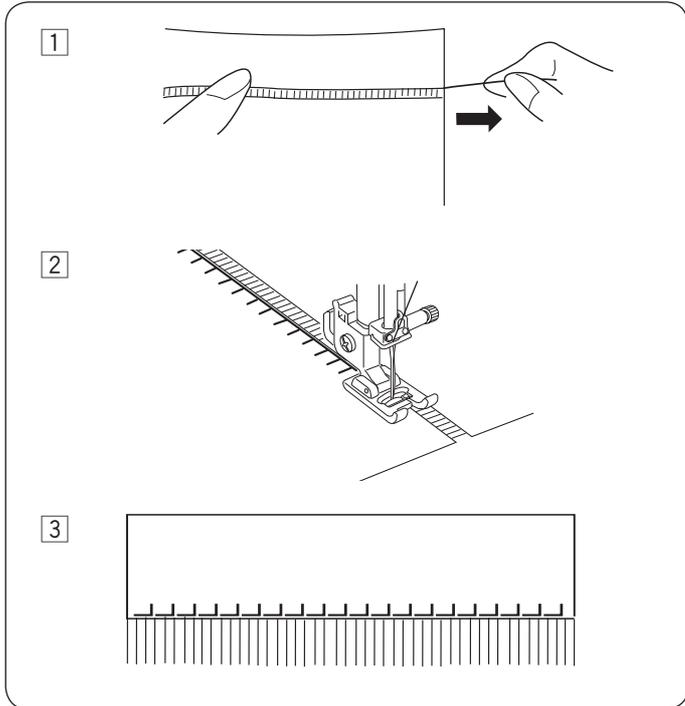
● フリンジ

ミシンのセット

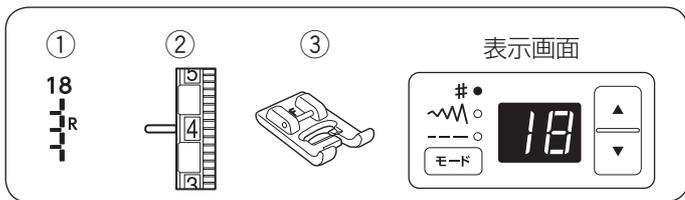
- ① 模様番号： 18
- ② 糸調子ダイヤル： 1～4
- ③ 押さえ： サテン押さえ F

テーブルリネン、ショールなどの布端に、ふさをつくり
ます。織り糸を簡単に抜くことができるリネンのような
しっかりした織物を使用してください。

- ① フリンジの束になる部分の織り糸を1～2本抜き取り
ます。
- ② 織り糸を抜いた上をぬいます。



- ③ フリンジにする部分の織り糸を全部抜き、ふさを作り
ます。



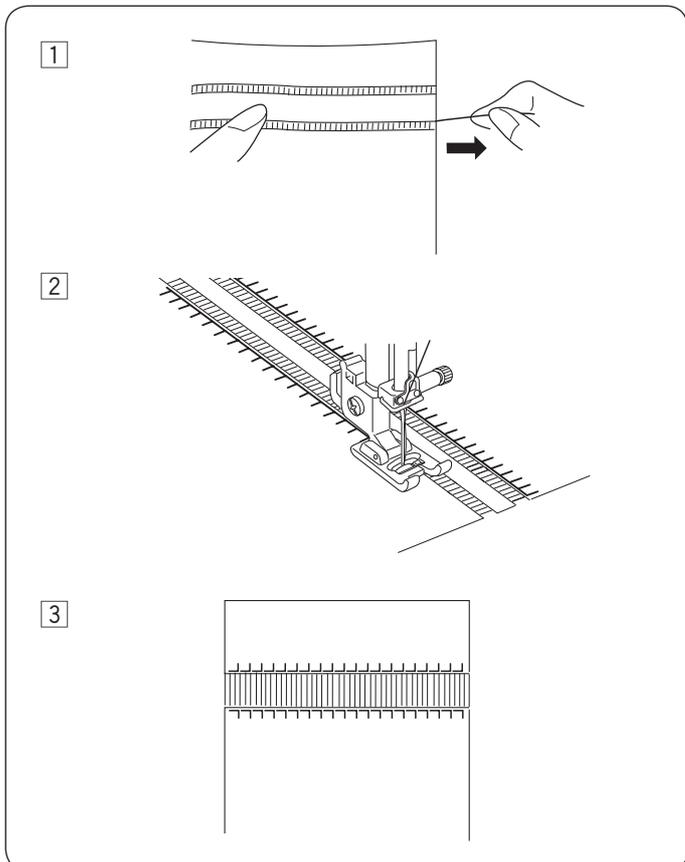
● ドロンワーク

ミシンのセット

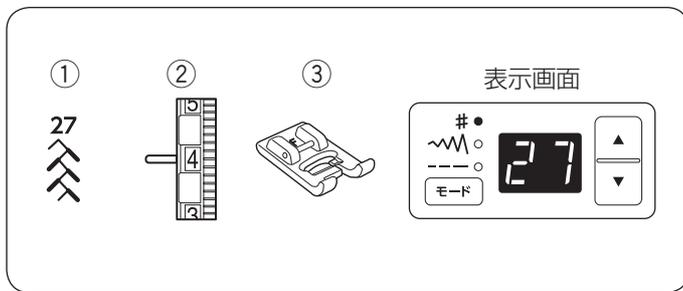
- ① 模様番号： 18
- ② 糸調子ダイヤル： 1～4
- ③ 押さえ： サテン押さえ F

フリンジと同じように、織り糸を簡単に抜くことができ
るリネンのようなしっかりした織物を使用してください。

- ① ドロンワークする部分の両わきの織り糸を1～2本
抜き取ります。
- ② 織り糸を抜いた両わきをぬいます。



- ③ ドロンワークにする部分の織り糸を全部抜き取り
ます。



● スモッキング

ミシンのセット

- ① 模様番号: 27
- ② 糸調子ダイヤル: 3~6
- ③ 押さえ: サテン押さえ F

※ 模様  など使えます。

スモッキングは子供服やブラウスなどに使用するぬい方です。

柔らかく、うすい生地の布を使用します。

完成する幅よりも3倍ほど広くとった布を用意します。

- ① 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約10cmほど引き出しておきます。
※ 下糸を針板の上に引き出す方法は、18ページの「下糸を引きあげる」をごらんください。

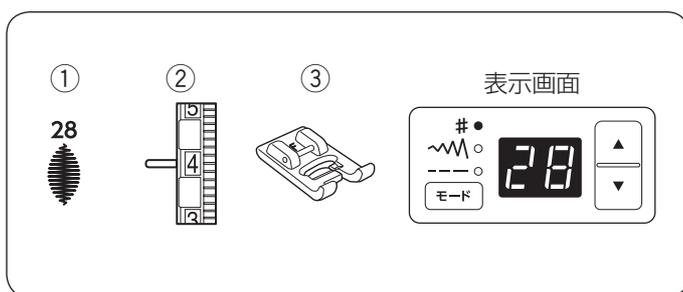
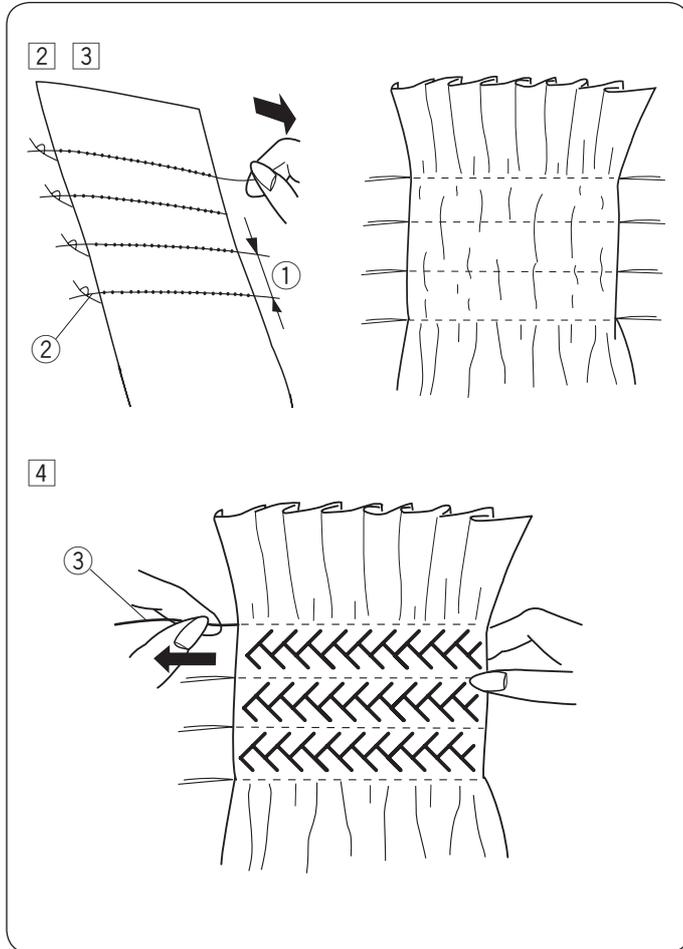
- ② 模様  を選び、糸調子を「1」、ぬい目のあらかさを「4.0」に設定します。(11、22ページ参照)
1cm間かく①の直線を平行に数本ぬいます。

- ③ 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結び②ます。

- ④ 糸調子を「3~6」にもどします。

模様  を選んで直線ぬいと直線ぬいのあいだに模様をぬいます。

模様をぬったあと、手順②でぬった直線ぬいの糸③を抜き取ります。



● 密着模様ぬい (サテン)

ミシンのセット

- ① 模様番号: 28
- ② 糸調子ダイヤル: 1~4
- ③ 押さえ: サテン押さえ F

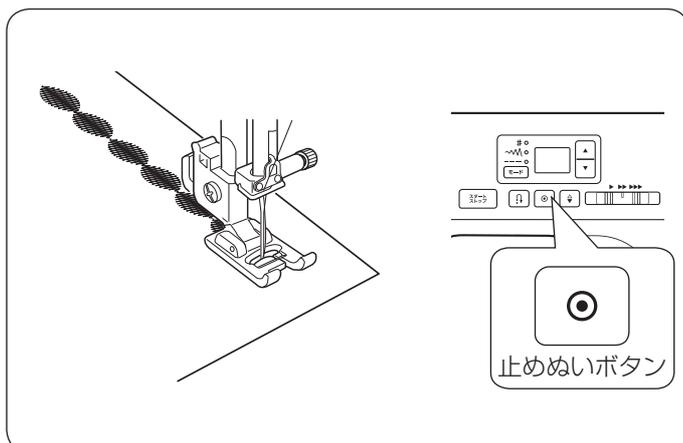
※ 模様  など使えます。

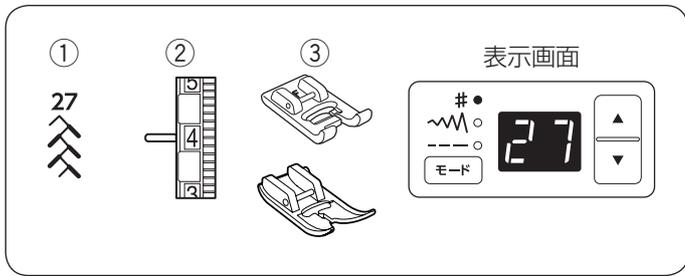
密着模様は、ぬい目のあらかさが細かい飾り模様です。

ぬい目のあらかさ調節ボタンで、あらかさを細くすると、ぬい目がつまって布を送らなくなることがあります。必ず試しぬいをして布送りの確認をしてください。

※ ぬい途中に、ぬい終わりの位置付近で止めぬいボタンを押すと、模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいをして自動的にミシンが止まります。

※ 布が縮む場合、裏に芯地を貼ってください。



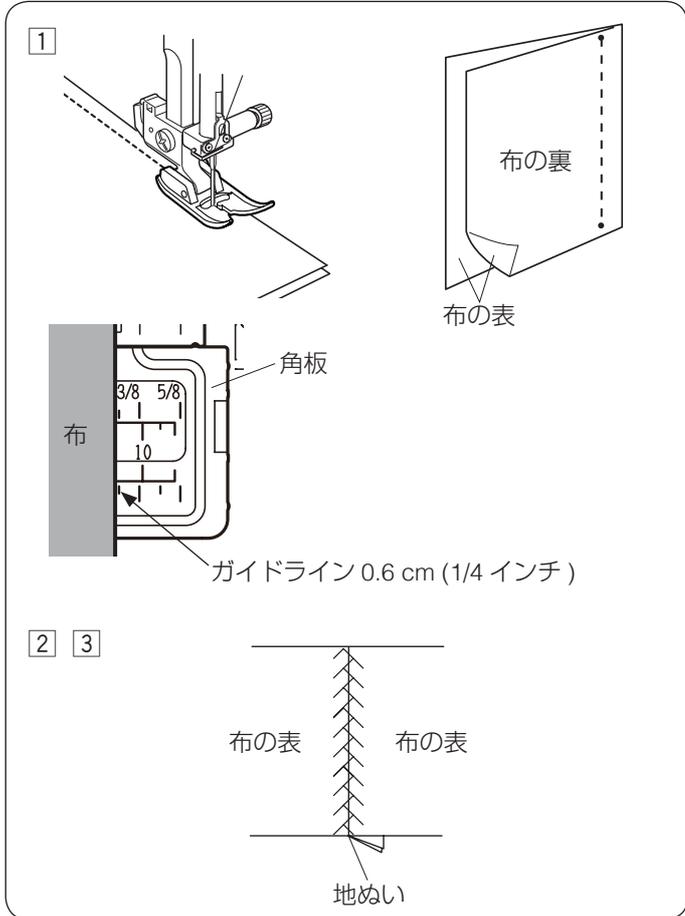


● パッチワーク

ミシンのセット

- ① 模様番号： 27
- ② 糸調子ダイヤル： 2～6
- ③ 押さえ： サテン押さえ F

※ 模様   なども使えます。



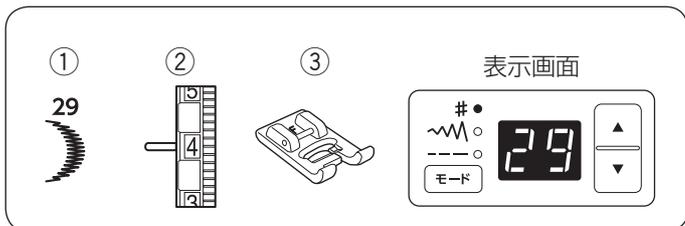
- ① 布を中表に合わせ、模様  を選びます。

基本押さえ A で地ぬいをします。

※ 地ぬいは、布端を角板のガイドライン 0.6 cm (1/4 インチ) に合わせてぬいます。

- ② ぬいしろを割ります。

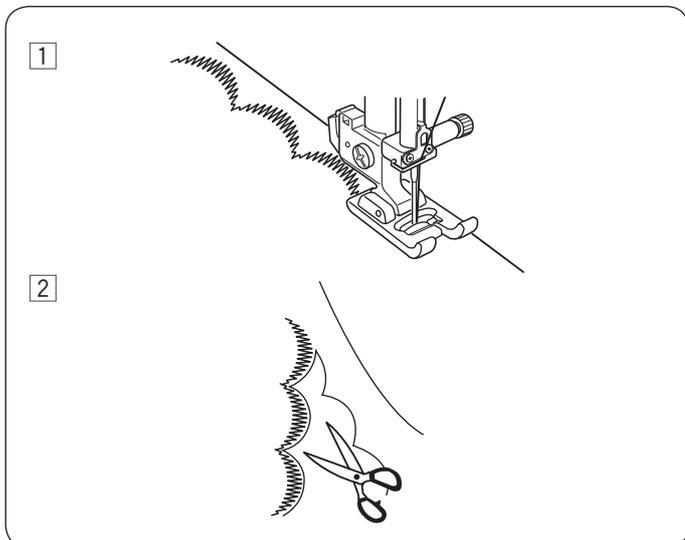
- ③ 模様  を選び、サテン押さえ F で布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。



● スカラップ

ミシンのセット

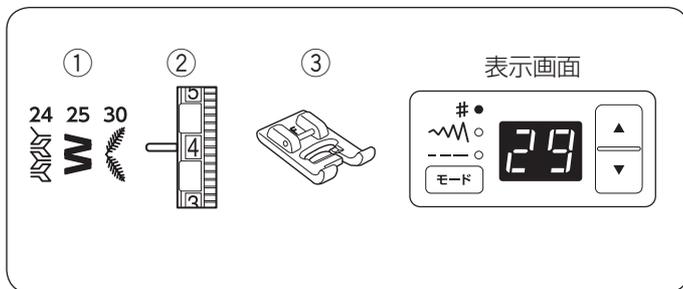
- ① 模様番号： 29
- ② 糸調子ダイヤル： 1～4
- ③ 押さえ： サテン押さえ F



- ① 布の表から布端を 1 cm くらい残してぬいます。

※ 必要な模様数の最後のぬい途中で止めぬいボタンを押すと、その模様をぬって自動的に止まります。

- ② 糸を切らないように外側の布を切り落とします。



● 飾り模様

ミシンのセット

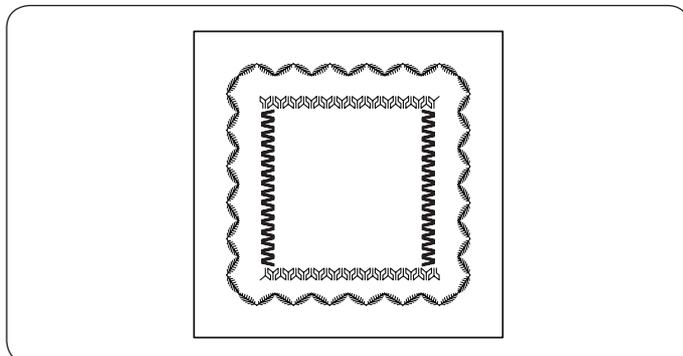
- ① 模様番号： 24、25、30
- ② 糸調子ダイヤル： 3～6
- ③ 押さえ： サテン押さえ F

※ 模様       などが使えます。

テーブルクロスなどの飾りぬいとして使用します。

布が前後してぬわれます。

ぬい目が曲がらないよう、布をガイドしてぬってください。



◎ ミシンのお手入れ

● かまと送り歯の掃除

⚠ 注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。感電・火災・けがの原因となります。

電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して、針を上にあげ、電源スイッチを切ります。

電源プラグをコンセントから抜きます。

針と押さえホルダーを外し、角板を外してボビンを取り出します。

- ① しめねじ 2 個をドライバーで外し、針板を外します。
- ② 内がまの手前を上へ引きながら外します。
- ③ 内がまを付属のミシンブラシで掃除し、内がま全体をやわらかい布で軽くふきます。
- ④ 送り歯のごみをミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

- ⑤ 外がまの中央部をやわらかい布で軽くふきます。

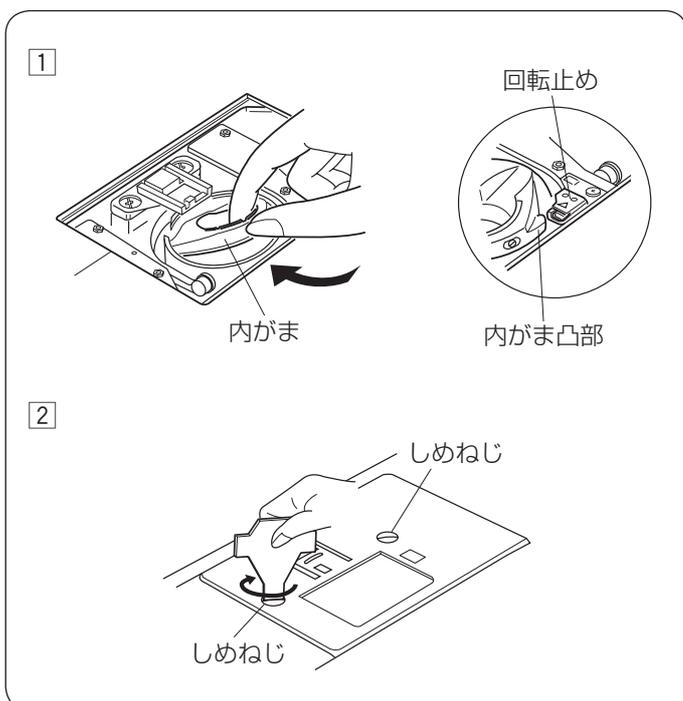
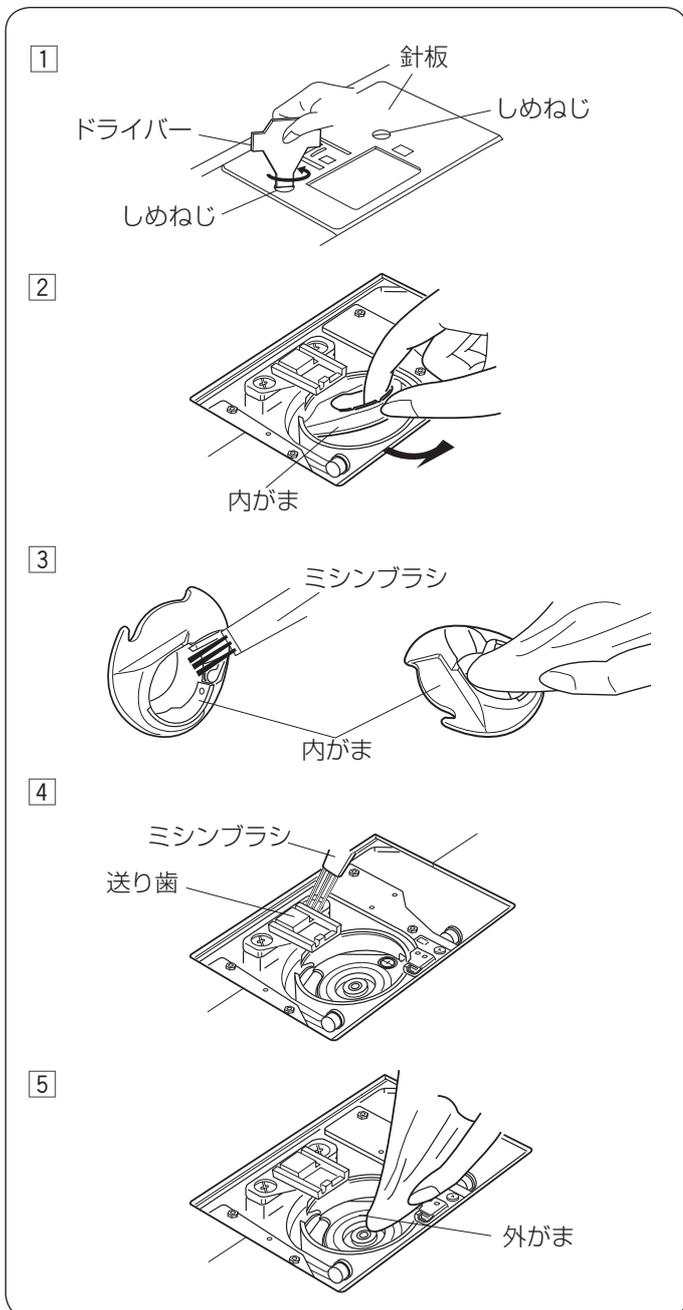
※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸い取ってください。

● 内がまと針板の組み付け

- ① 内がまを差し込みます。
内がまの凸部を回転止めの左側におさめるようにして、内がまを取り付けます。

- ② 針板をしめねじ 2 個で取り付けます。

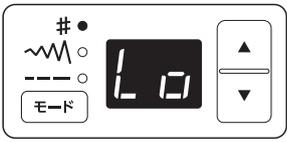
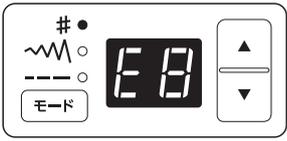
※ お手入れが終わったら、針、押さえホルダー、ボビン、角板を取り付けます。



◎こんなときには

●エラー画面が表示された場合

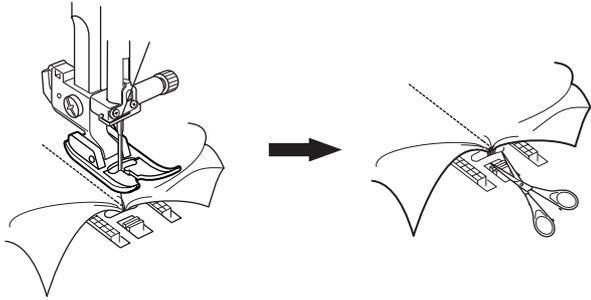
禁止音や警告音とともに下記メッセージ画面が表示された、または表示されている場合、直し方にしたがってください。

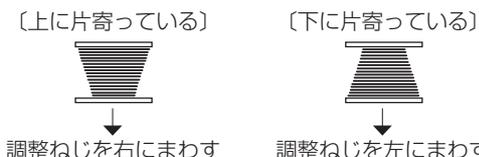
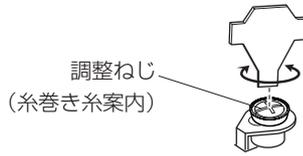
表示	原因	直し方
	安全装置の作動によりミシンモーターが緊急停止したときに表示されます。	緊急停止後 15 秒間ミシンは動きません。 糸がらみなどがある場合、電源スイッチを切り、糸を取り除いてください。
	スピードコントロールつまみの基盤の故障です。	電源スイッチを切り、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●ブザー音の種類

ブザー音	内容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピー	ミシンが正しく作動しなかった場合の警告音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了などの終了音です。

● ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. ぬい始めに上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. 糸がかまなどにからまっている。 7. 針に対して糸が太すぎるか細すぎる。 8. 糸こまに上糸が引っかかっている。 	<p>16 ページ参照</p> <p>11 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p> <p>20 ページ参照</p> <p>44 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p> <p>糸こま押さえを付ける</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下糸の通し方がまちがっている。 2. 内がまの中にごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4. 下糸の巻き方がゆるい。 	<p>15 ページ参照</p> <p>44 ページ参照</p> <p>ボビンを交換する</p> <p>14 ページ参照</p>
針が折れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけがゆるんでいる。 3. ぬい終わったとき布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 模様合った押さえを使用していない。 	<p>12 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p> <p>布を向こう側に出す</p> <p>12 ページ参照</p> <p>指定の押さえに交換する</p>
ぬい目がとぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメブル針（オプション）を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している 	<p>12 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p> <p>16 ページ参照</p> <p>針を交換する</p>
ぬい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついたりしている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. ぬい目のあらかさが布に対してあらかすぎる。 5. うすい布をぬうとき、芯地を使っていない。 	<p>11 ページ参照</p> <p>15、16 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p> <p>ぬい目を細かくする</p> <p>芯地を貼る</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。 	<p>44 ページ参照</p> <p>ぬい目をあらくする</p> <p>9 ページ参照</p>
ぬい目に輪ができる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。 	<p>11 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p>
うすい布、伸縮性の布が食い込む	<ol style="list-style-type: none"> 1. 布に対して針と糸があっていない。 2. 左針位置でぬっていない。 	<p>12 ページ参照</p> <p>左針位置でぬう</p>
布裏で糸がからまる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっている。 <p>〔手順 ② の図〕</p> 	<p>[からまっている糸の取り方]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 電源スイッチを切る ② 押さえ上げと針をあげ、ハサミで布裏の糸を切る ③ 針板を外す (44 ページ参照) ④ ボビン、内がまを外し、からまっている糸を取り除く (44 ページ参照) ⑤ ボビン、内がま、針板を取り付ける (44 ページ参照) ⑥ 上糸をかけ直す (16 ページ参照)

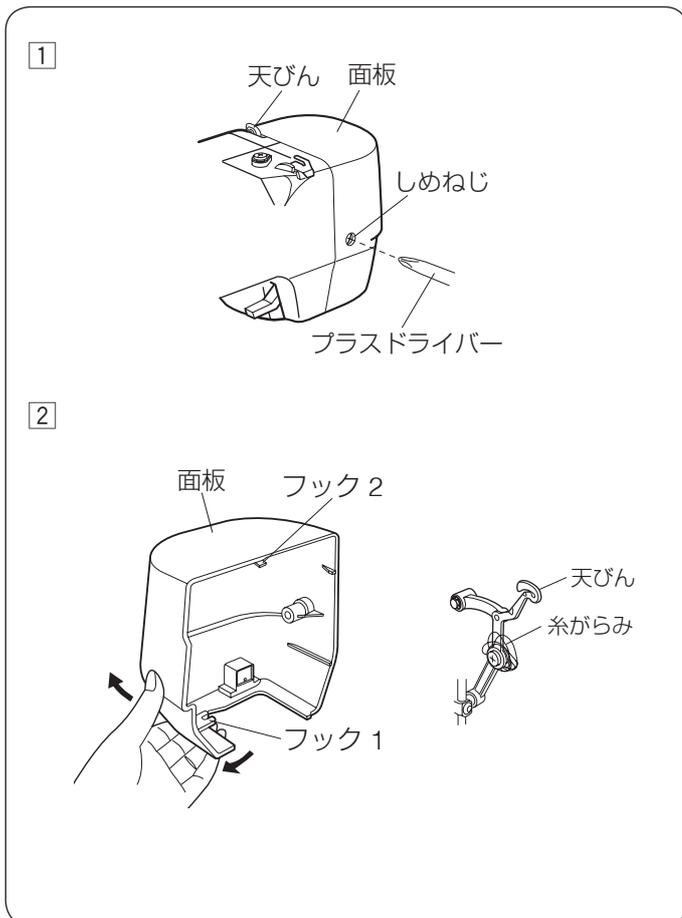
調子が悪い場合	原因	直し方
上糸が抜ける	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. めい始めに上糸・下糸を押さえの下にそろえていない。	16 ページ参照 20 ページ参照
かまに糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. かまにキズがある。 3. 内がまの入れ方がまちがっている。	16 ページ参照 かまを交換する 44 ページ参照
音がして糸がからまる	1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。	16 ページ参照 16 ページ参照
フットコントローラー (オプション) をふみ込んでも動かない	1. フットコントローラーのプラグが差し込まれていない。	6 ページ参照
糸通しができない	1. 針が上にあがっていない。 2. 糸通しのフックが針穴に入っていない。 3. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	17 ページ参照 17 ページ参照 12 ページ参照
ボタンホールがうまくぬえない	1. 布に対してめい目のあさが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	30 ページ参照 伸びない芯地を貼る
音が高い	1. かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯にごみがたまっている。 3. 電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音が出る。	44 ページ参照 44 ページ参照 異常ではありません
めい終わりに下糸が二重に出てくる	1. 針が上まであがっていない。	上下停針ボタンを押して針をあげる
めい目に下糸が出る	1. ボビンのセットがまちがっている。 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。	15 ページ参照 13 ページ参照 16 ページ参照 11 ページ参照
めい始めの糸がらみ	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. めい始めに上糸・下糸を押さえの下にそろえていない。	16 ページ参照 20 ページ参照
ボビンに下糸がうまく巻けない	1. 下糸のかけ方がまちがっている。 2. ボビンの上、または下に巻きが片寄っている。 <div style="text-align: center;"> <p>〔上に片寄っている〕 〔下に片寄っている〕</p>  <p>調整ねじを右にまわす 調整ねじを左にまわす</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>調整ねじ (糸巻き糸案内)</p> </div>	14 ページ参照 調整ねじをまわす 注意： 調整ねじをまわす範囲は、1回転までにしてください。部品が外れます。
模様がきれいにぬえない	1. ボビンのセットがまちがっている。 (ボビンの入れる方向が違う・下糸が内がまのばねに入っていない。) 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。	15 ページ参照 13 ページ参照 16 ページ参照 11 ページ参照

● ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	原因	直し方
ミシンが動かない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに糸やごみがたまっている。 3. ボビンに糸がからまっている。 4. 押さえ上げがさがっていない。 5. 下糸を巻いたあと、糸巻き軸が糸巻きの位置（右側）にある。 6. 上糸が外れ、ボビンにからまって（ガチャガチャ音がする）いる。 	<p>6 ページ参照 44 ページ参照 ボビンの糸を確認する 10 ページ参照 14 ページ参照 上糸かけを確認する [天びんの外れ確認]</p>  <p>7. 上糸が天びんから外れ、ほかの部品にからまっている。</p> <p>8. フットコントローラーを接続したままでスタート/ストップボタンを押している。</p> <p>面板を外して、糸を取り除く。 下記【面板の取り外し、取り付け方】を参照 フットコントローラーを外す</p>

※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モーターから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 長時間使うと画面や操作パネル付近の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。



● 面板の取り外し、取り付け方

【外し方】

電源スイッチを切ります。

① プラスドライバーでしめねじを外します。
※ プラスドライバーは付属されていません。

② 面板を外します。
面板の下側を手前に引き、左にスライドさせ、フック 1 を外したあと、フック 2 を外します。

※ 面板を外し、天びんにからまっている糸を取ります。

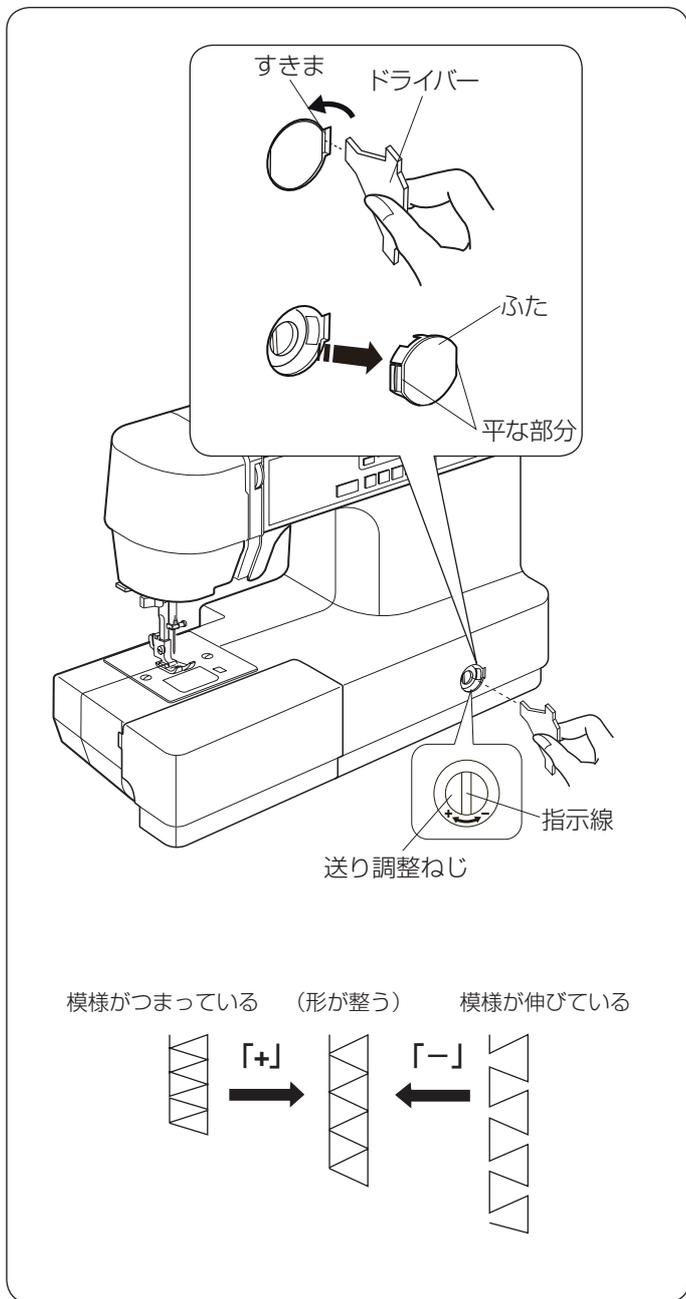
【付け方】

① 面板を取り付けます。

フック 2 を取り付け、面板の下側を手前に引き、右にスライドさせてフック 1 を取り付けます。

② しめねじで固定します。

※ ぬいのはきは、必ず面板を取り付けてください。



● 模様の形の調整（送り調整ねじ）

布の種類や厚さなど、ぬいの条件によって模様の形がくずれる場合があります。

ぬうときと同じ条件で試しぬいをし、模様の形がくずれる場合は送り調整ねじで調整します。

右側のすきまにドライバーを入れてふたを外します。

※ ミシン本体および、ふたに傷がつかないように注意してください。

取り付けるときは、ふたの平な部分が左右にくるようにはめ込みます。

※ 左図のように指示線が垂直になる位置が、標準的な条件で模様を正しくぬえる位置の目安です。

※ 送り調整ねじの位置をかえた場合、ぬい終わったあと標準位置（指示線が垂直の位置）にもどしてください。

例【模様 ¹⁴ のとき】

- 模様がつまっているとき：
送り調節ねじを「+」の方向にまわします。
- 模様が伸びているとき：
送り調節ねじを「-」の方向にまわします。

● 模様一覧

01



02



03



04



05



06



07



08



09



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



♥ MEMO ♥

♥ MEMO ♥

仕 様	
使用電圧	100 V 50 Hz / 60 Hz
消費電力	32 W
外形寸法	幅 384 mm × 奥行 163 mm × 高さ 282 mm
質量	4.7 kg (本体)
使用針	家庭用 HA X 1
最高ぬい速度	毎分 820 針 フットコントローラー使用時 毎分 820 針

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間の基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げの販売店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

住所 〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
電話 お客様相談室 0120 - 026 - 557 (フリーダイヤル)
042 - 661 - 2600

受付 平日 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <https://www.janome.co.jp>
問合せフォームをご利用ください。

